一般社団法人 日本自動車車体工業会・会報（季刊発行） 2024年9月15日発行・第61号3巻

車体NEWS

AUTUMN 2024 秋

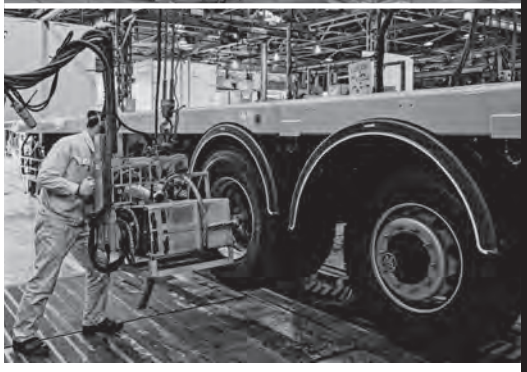
JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

大型ゲート付き2段床トレーラ
（詳細はP.31を参照）

CONTENTS

巻頭言 …… 2
NEWS特集
　カーボンニュートラル対応　第13回 …… 3
NEWS FLASH
　本部だより …… 5
　部会だより …… 5
　支部だより …… 8
　官公庁だより …… 9
　月度活動状況 ……11
　会員情報 ……14
NET WORK　vol.116
　㈱NICHIJO ……15
VOICE　STAGE 104
　エバスペヒャーミクニ クライメットコントロールシステムズ㈱ …17
　㈱日本ヴューテック ……18
そこが知りたい　第62回
　「ライドシェアとは?」…… 19
働くクルマたち　第46回
　「放送中継車」…… 21
COFFEE BREAK …… 23
いどばた会議　第19回
　「私のSDGs　Part10」…… 25
我が社の元気人 …… 27
DATA FLASH
　2024年4月～6月 会員生産状況 …… 28
編集後記 …… 31

URL:www.jabia.or.jp/　E-mail:info@jabia.or.jp



輸送機器メーカーとして『今、できること』

日本トレクスは物流をとりまく課題に多種多様なラインアップで応えます

トレーラをはじめとした輸送機器を主軸に、
日本の物流を支えて参りました。
2024年問題など、
物流をとりまく課題は山積しています。
我々日本トレクスは、
輸送機器の開発・設計・製造を通して、
これらの課題に『今、できること』を
提案し続けます。

スワップウイングボデー

ウイングセミトレーラ

ダブル連結トラック

大型ウイングボデー

重機運搬セミトレーラ

平床アオリ付セミトレーラ

コンテナセミトレーラ

粉粒体運搬セミトレーラ

TREX 日本トレクス株式会社

〒441-0193　愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地　TEL 050-3486-2265

HP　YouTube　Instagram　X

巻頭言

車両法規改定にかかる当会の役割について

副会長　布原　達也
極東開発工業㈱・代表取締役社長

2023年度より、当会の副会長を拝命し、また、中央技術委員会の委員長を務めさせていただいております極東開発工業の布原でございます。

中央技術委員会は、多くの会員様が当会へ期待されている保安基準、検査規定などの車両法規関連のフォローや、製品の標準化などに関する技術基準の策定、技術的な調査研究、業界としての点検整備推進など、当会の中でも非常に重要な役割を担っている委員会です。

特に車両法規への対応は当委員会の最重要項目ですが、多種多様な特装車においては、一律の運用では対応できない場合も多く、法規の素案段階での当会意見の反映や、施行における検査側との細部の調整が必要になります。

この車両法規の改正については、昨今の自動車認証問題にも繋がる複雑な部分があり、ここで車両法規改正に対する当会の関わりについて、若干の解説をしてみたいと思います。

自動車の認証にかかる、構造、性能、安全、環境などに対する各種の規則については、各国間の認証手続きの簡素化を図るため、「国連の車両・装置等の型式認定相互承認協定」（1958年協定）が存在しており、決められた国際規則（UN規則）を協定参加国間で、相互承認する枠組みになっています。日本は1998年にこの協定に加入しています。また、これらのUN規則はすでに170項目に達しており、日本は国内基準として、このうちの104項目を採用しています。

このUN規則は、「国連の自動車基準調和世界フォーラム」（WP.29）で、最新の社会ニーズや技術革新に合わせて、策定、改定が審議されており、そのテーマごとにGRSG（安全一般）、GRE（灯火器）、GRSP（衝突安全）、GRVA（自動運転）、GRBP（騒音とタイヤ）、GRPE（排出ガスとエネルギー）の、6つの専門会議体より構成されています。私たちは、それぞれの会議体をWATCHし、当会に関係のある内容を選別し、必要に応じて、その会議に参画して意見しUN規則に反映させなければなりません。

WP.29で策定されたこれらのUN規則（UN-R**）の中で、国内規則として採用されるものが「協定規則第**号」となりますが、これらを国内で運用するためには、その検査方法、適用範囲などを国内実情に合わせ、細かく関係省庁と調整して、保安基準及びその検査規定に反映することが必要です。

直近では、R158（後退時車両直後確認装置）、R165（後退時通報装置、バックブザー関連）等について、その国内導入作業を進めてきました。今後、自動車の更なる安全性の追求や、自動運転、電動化などの新技術導入が拡大するにつれて、新しいUN規則の策定や、時代に合わせた改定作業が、ますます速度を上げて進んでいくと考えられます。

また国際的相互承認の観点からは、国内導入するUN規則の項目数も今後増えていくと考えられます。

これらの複雑高度化する各種の規則や規格を無理なく国内導入させるのが、当委員会の重要な役割となります。

現在では自動車のいわゆる「走る、曲がる、止まる」に関する部分は高度にグローバル化されており、それを担保する国際規格はますます複雑、高度化しています。そして、それが私たちの関わる車体部分へ及ぼす影響も大きなものがあり、その対応への負担も少なくありません。しかしながら、私たちがお客様にお届けする「働くクルマ」自体の安全性向上、環境性能向上などに直結する内容であるという基本に立ち戻って対応していくことが、一番大事なことだと思います。

今後とも、当会への会員の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

カーボンニュートラル対応 第13回

NEWS 特集

カーボンニュートラル(以下CN)については、2020年10月、政府が2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするCNを目指すことを宣言したことを受け、当会では、CN専門委員会を立ち上げ、2021年8月27日より活動を開始した。会員の皆様からいただいたアンケートの結果に基づき、CNを正しく理解していただくための勉強会の開催、パンフレットの送付(その1～4)、そして車体NEWSでは2021秋号から取組みを紹介している。

第13回目は、2024年度の車体工業会の取組み、CN専用ホームページ、CO_2排出量調査について紹介する。

2024年度車体工業会の取組み

1. 委員会活動による会員支援

①環境委員会WG活動による会員支援

環境委員会ではWG活動等により、会員のCN活動のサポートとなる情報を発信していきます。

項　目	実　施　事　項	進　捗
事例WG	わかりやすいCN対応事例の展開	**「儲かる・すぐできる・誰でもできる」事例**をHPに公開済 **https://www.jabia.or.jp/cn/energysaving/#energysaving01**
分析WG	CO_2排出量の算出方法のサポート 集計結果の分析 (削減項目、削減量把握と会員への削減アイテム情報発信　等)	7/25配信のエネルギー調査において、削減項目、削減量を記入する帳票を展開したので、回答へのご協力よろしくお願いいたします。
支援WG	現地現物による工場訪問支援、意見交換	訪問会社、訪問者選定中
LCA	自工会LCA分科会との連携 LCA評価ツールの検討	自工会、部工会の活動内容の情報収集中

②中央業務委員会

2023年度のアンケート結果をHPで公開中

https://www.jabia.or.jp/cn/about/#about02

CNアンケート結果から、会員の皆様の困り事解決、ご要望への対応を継続実施

③広報委員会

わかりやすい・検索しやすいCNホームページを目指し、

トップページに、CNページへ簡単に遷移するバナーを追加

https://www.jabia.or.jp/

2. 部会・支部活動による会員支援

①部会

各部会毎(特装・特種・トラック・バン)に、会員支援策を検討・実行

特装部会	部会内CN WGを立ち上げ、会員支援策を検討 ⇒7/25配信のエネルギー調査に **記入要領をわかりやすくまとめた「手引書」を添付し、会員配信**
特種部会・トラック部会	各社の取組みを部会で共有
バン部会	業務委員会が中心となり、**委員会社のCN担当者を招いた勉強会を開催予定**

②支部

工場見学会を兼ねたCN勉強会の開催を各支部にて計画中

CN専用ホームページ

迅速に、そして分かり易くCNに向けた会員の皆様の活動状況や官公庁、他団体の有益な情報を共有し、諸活動にお役立ていただくために、2022年12月22日に「CN専用ホームページ」を開設

https://www.jabia.or.jp/cn/

CN専用ホームページ トップページ

<新着情報>

カーボンニュートラルの基礎知識

・2023年度アンケート結果

https://www.jabia.or.jp/cn/about/#about02

車工会会員の皆様へ

会員にとって有益な情報を継続して発信して参りますので、
掲載要望やお気づきの点がございましたら、お気軽に事務局までお問い合わせください。
お問い合わせはこちら　**https://www.jabia.or.jp/cn/contact/**

2024年度CO_2排出量調査へのご協力依頼

車体工業会では地球温暖化対策につき、2008年度から日本自動車工業会と一体となった取組みを推進し、経団連の「カーボンニュートラル(CN)行動計画」に基づくCO_2排出量調査を実施しています。

2050年のCN達成に向け、脱炭素化の流れが本格化する中で、当会も2030年に向けたCO_2排出量の目標値を掲げ、会員の皆様の排出量、省エネ量等の実態把握を行い、エネルギー削減に繋がる活動を進めて参ります。
以下項目の2023年度実績について、ご提出をお願いいたします。

<調査項目>

① 2023年度実績エネルギー調査
② 2023年度改善内容と改善量
③ 省エネ・CO_2削減 改善事例

本部だより NEWS FLASH

■臨時総会・臨時理事会

当会会長（増井敬二・トヨタ車体㈱代表取締役会長）による下記事項についての提案に対し、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき、臨時総会並びに臨時理事会に決議及び報告があったものとみなされた※。

臨時総会

決議があったとみなされた事項の内容

新任理事選任　冨山 隆

日産車体株式会社　代表取締役社長

決議および報告があったものとみなされた日

2024年8月7日

臨時理事会

決議があったとみなされた事項の内容

⑴ 新任副会長選任　　冨山 隆　理事

⑵ 新任委員長選任

環境委員長　　冨山 隆　理事

広報委員長　　冨山 隆　理事

決議及び報告があったものとみなされた日

2024年8月30日

※決議・報告の省略

社員総会　第2章 第3節 第1款 第58条第1項 及び 第59条

理事会　　第2章 第3節 第5款 第96条 及び 98条

■中小会員ネットワーク強化WGによる訪問ヒヤリング

中小会員ネットワーク強化WG（リーダー・矢野彰一・㈱矢野特殊自動車社長）では、6月12日に11社11名が参加し、兼松エンジニアリング㈱ テクノベース(高知県高知市)を訪問し、工場見学を行った。

兼松エンジニアリング㈱は、1971年に創業し、環境整備機器の製造販売からスタート。1974年には強力吸引作業車を開発し、車体架装を開始。吸引ポンプの車載ノウハウを活かし、環境整備・維持を実現する吸引作業車のトップメーカーとして活躍している。2021年に創立50周年を迎えた。

プレゼンテーションは、ビデオを用いた会社沿革や工場概要の説明で、品質の高いクルマ作りが伺える、非常にわかりやすいものであった。

工場見学では、2021年8月に完成したテクノベース生産技術センターにて、強力吸引車の工程、高圧洗浄のデモ等を見学し、天井が高く、5Sの行き届いた工場は、「架装工場のあるべき姿だ」との参加者コメントが聞かれるほど、すべての工程で効率的な生産を実現する創意工夫がされていて大変勉強になった。

質疑応答では、3D-CADの導入状況、全国のサービスメンテナンス展開、採用の工夫等活発な意見交換を行うことができ、大変有意義な訪問となった。

山本社長によるプレゼンテーション

部会だより NEWS FLASH

特種部会

■第1回工場見学会

特種部会（部会長・森孝義・中京車体工業㈱社長）では、6月27日、28日に16社23名が参加し、㈱パトライト テクノセンター（兵庫県三田市）及び㈱モリタ 三田工場（兵庫県三田市）を訪問し、工場見学を行った。

㈱パトライトでは、会社概要、「製造業のカーボンニュートラルの取組み」のプレゼンテーションの後、工場見学（ショールーム、製造現場、コンプレッサー設備）を実施した。

㈱パトライト 会社概要のプレゼンテーション

企業理念に『世界中の人たちに「安心」「安全」「楽楽」をお届けし、社会に貢献します』を掲げ、1947年に創業、1965年に自社製モータを使った回転警示灯（パトライト）の製造

を開始。「光」と「音」を組み合わせて独自の報知機器を作り上げ、近年では、ネットワーク通信技術と融合させ、新たな市場領域への進出にも挑戦している。国内市場においては約70%のマーケットシェアを確立し、2020年には経済産業省認定「新グローバルニッチトップ企業100選」にも選ばれ、グローバルシェアNo.1にまで成長した、信号灯のトップメーカーである。

㈱パトライト　製造工程

「現場が推進するカーボンニュートラル」のプレゼンテーションは、生産性向上の先にCNがあり、もうかる工場となることができる事を事例を踏まえてご説明いただき、大変参考となるものであった。工場見学では、自社製品を活用した、現場の改善事例を詳細にご説明いただき、大掛かりな投資等がなくても大きな改善が可能であることを学ぶことができた。

㈱モリタは、1907年創業、日本の消防自動車のトップメーカーとして日本の消防技術をリードし、現在では、消防車の約60%のシェアを有している。ポンプ車からはしご車、コンビナート向けの消防車や空港用の消防車、救助工作車など、幅広い消防車の開発・製造・販売を行ない、消防車専用のキャブやボデー、タンクの製造など特殊部品の製造も行う。工場見学では、はしご車を中心とした製造ライン、実際にはしごを昇降させ、品質確認を行う検査工程等、創意工夫により、高い品質と効率化を両立した工場は、参加者にとって大変参考となるものであった。質疑応答では、新卒社員の教育、職場環境維持のための環境測定等多くの質問に対し、丁寧に回答いただいた。

トレーラ部会

■工場見学会を実施

トレーラ部会（部会長・高崎文弘・日本トレクス㈱社長）では、5月28日・29日、4社15名が参加して工場見学会を実施し、ブリヂストンBRM㈱加須工場（埼玉県加須市）、㈱ブリヂストン栃木工場（栃木県那須塩原市）、ジェイ・バス㈱宇都宮工場（栃木県宇都宮市）を訪問した。今回は異業種見学に加えて、カーボンニュートラル（以下CN）の取組みへの気づきを得ることを目的とした。

ブリヂストンBRM㈱加須工場では、自社に留まらずサプライチェーン全体でCNに取組み、資源の有効利用や温室効果ガス排出量の大幅な削減に貢献するとの高い視座と幅広い視野で、大型トラック・バス用のリトレッドタイヤ（摩耗したトレッドゴム（路面と接する部分）を新しく貼り替えて再使用するタイヤ）を生産している。再利用タイヤの受入検査から研磨、新トレッド貼付、成型、製品検査まで見学し、受入から出荷まで何重もの徹底した品質検査体制と、現場従業員の方々の礼儀正しい応対や工場スタッフ皆様によるおもてなしの数々がとても印象的であった。

ブリヂストンBRM㈱加須工場　台タイヤ検査工程

㈱ブリヂストン栃木工場では、トラック・バス・乗用車用に加えて地下鉄・モノレール用の新品タイヤを生産しており、今回はトラック・バス用の生産工程を見学した。大型商用車後輪の片側2本を超扁平化により1本にすることで軽量化による燃費向上に貢献している等、各工程で高い技術力とそれによる社会貢献を実感できる見学会であった。

㈱ブリヂストン栃木工場　プレゼンルーム

ジェイ・バス㈱宇都宮工場では、大型から小型までの路線バスを生産しており、シャシ組立から艤装組立工程まで見学したが、塗装工程も見学ルームから見ることができた。路線バスの内外装はバス会社からのオーダーによるため多仕様となっているが、その対応について皆真剣に見学していた。CNについては、中長期目標と達成に向けたロードマップを策定し、省エネ&CO_2排出量削減を全社活動として積極的に取り組まれていた。

今回3工場の見学で得られたCN取組みへの気づきを、トレーラ部会として今後どのように活用していくか引き続き検討していく。

■製品安全委員会
「トレーラ火災注意&予防整備」チラシを作成

製品安全委員会(委員長・桑鶴洋二・日本トレクス㈱品質保証部部長)は、2024年8月に「トレーラ火災にご注意!」、「トレーラの予防整備を行っていますか!?　整備・修理には安心の純正品をご指定ください!」のチラシを作成した。

これはトレーラの火災防止及び整備事業者へのトレーラ整備作業周知と純正品販促活動の一環として、日本自動車整備振興会連合会(JASPA)とのコラボ企画から生まれたものであり、今秋全国の整備事業者に向けて98,450枚を配布していく。また今後はこの車体NEWSや市販の自動車雑誌等にも掲載し、安全輸送と日常整備、純正品販促を積極的にPRしていく。

バス部会

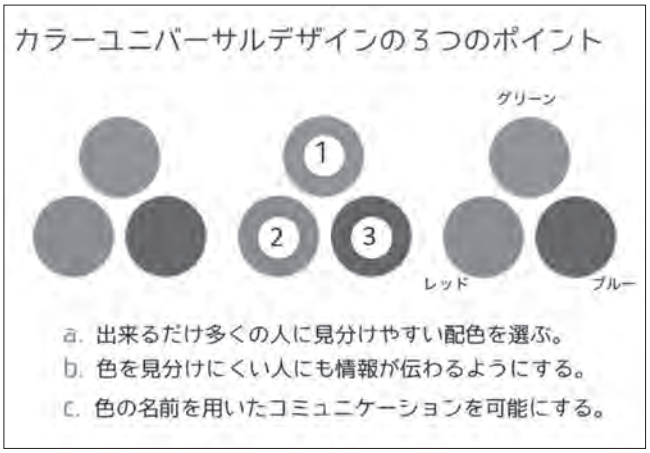
■カラーユニバーサルデザイン(CUD)勉強会を開催

講師：伊賀 星史氏

ワンマン機器小委員会(委員長・水野貴弘・ジェイ・バス㈱小松製品企画・開発設計部 先行・実験グループ グループリーダー)は、6月10日にカラーユニバーサルデザイン(CUD:多様な色覚に配慮して、情報がなるべくすべての人に正確に伝わるように利用者の視点に立って配色すること)勉強会を開催した。特定非営利活動法人 カラーユニバーサルデザイン機構 CUDコンサルタントの伊賀星史氏を講師として車体工業会事務所に招き、会員各社の会議室23拠点とオンライン方式で実施し、車工会会員及び自工会バス分科会合わせて14社216名が参加した。

開催の背景としては、2023年度にJABIA規格「バス用乗客降車合図装置(JABIA-B1004)」の改正内容を検討していく中で、降車用押しボタンの現行品(紫レンズに赤色発光)が色弱者の方には見えにくいとの声があることが分かり、CUDを理解した上で規格改正に反映するため、該当部品担当者以外の技術者も数多く参加した。

勉強会では、色に関する基礎知識、人によって異なる色の見え方・感じ方、眼の仕組みや様々な色弱のタイプや特徴の紹介、色弱シミュレーションツールによる色弱者の見え方(赤と緑は同じ茶色に見える等)、色覚の違いが引き起こす日常生活の様々な問題点やバス・公共機関への色弱者の声、日常社会におけるCUD導入事例等々、豊富な写真やイラストを用いた分かりやすい説明で、その後の質疑応答も活発に行われ、とても充実した勉強会となった。参加者からの反響も多く、今後の規格改正検討やバス開発に活かしていく。



支部だより NEWS FLASH

北海道支部

■第1回役員会を開催

北海道支部（支部長・上野聡・北海道車体㈱生産管理本部上席本部長）では、7月23日に、第1回役員会を北海道車体㈱で開催し、合同部会に向けての打ち合わせを行い、9月12日に札幌REIホテルで合同部会を行うことを決定した。

また、2024年度6月～8月事業計画の安全対策活動推進支援で、6月の不正改造根絶活動に参加した各会員へポスターを配布して啓発を図った。

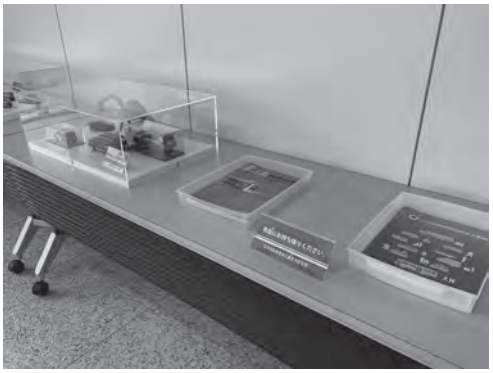
中部支部

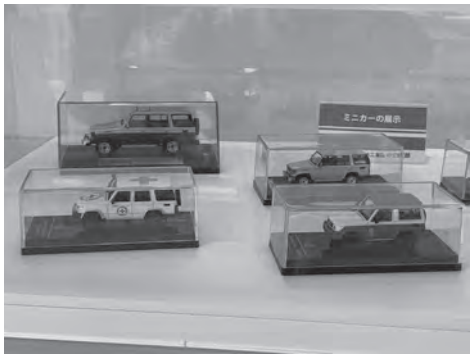
■愛知県自動車会館PR展示

中部支部（支部長・景井啓之・㈱東海特装車社長）は、事務局が入居する愛知県自動車会館にてPR展示を実施した。

愛知県自動車会館は、入居する自動車関連の17団体がロビーでのPRを実施しており今年で8回目となる。

車体工業会中部支部は7月の担当として、世界各地で働くクルマ『ランドクルーザー70』のミニカー展示を通して「活動紹介」や「車体工業会パンフレット」、「車体NEWS」により、来館者へのPRを実施した。





近畿支部

■第13回製造部会を実施

近畿支部（支部長・須河進一・須河車体㈱社長）では、7月12日に17社30名が参加し、㈱東海特装車（愛知県安城市）で製造部会を実施した。

㈱東海特装車本社安城工場では、特装車の部品製作から組立ライン等を見学した。また工場内の至る所で、作業従事者による改善事例をご教授いただいた。1秒1歩1グラム、無駄を省くべく取り組まれている姿勢が従業員の方々に浸透していて、その活動が会社の利益や、現在課題となっているCNに結び付いていることの大切さを認識した。

参加者からは、「ご教授いただいた事例を社内に持ち帰って少しでも社内改善に役立てたい」というコメントが多く聞かれ、大変価値のある有意義な見学会となった。

官公庁だより NEWS FLASH

「装置型式指定実施要領について（依命通達）」等の一部改正について（依命通達）

国土交通省

・「事故情報計測・記録装置」（大型車用のもの。以下同じ）及び「年少者用補助乗車装置」（バス用のもの。以下同じ）が装置型式指定の対象となることに伴い、当該装置に係る装置型式指定基準を追加する
・その他、協定規則番号の改訂、型式認証実施要領等の一部改正等

道路運送車両の保安基準等の一部を改正する省令及び道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部を改正する告示について

国土交通省

・事故時の車両に関する情報を記録するために備える事故情報計測・記録装置（EDR:Event Data Recorder）について、乗車定員10人以上の乗用車及び車両総重量3.5tを超える貨物車においても、協定規則第169号の要件を満たすEDRを備えなければならない
・バス（乗車定員10人以上の乗用車）にビルトイン型（座席一体型）の年少者用補助乗車装置（チャイルドシート）を備える場合には、協定規則第170号（バスの座席一体型年少者用補助乗車装置に係る協定規則）の要件を満たさなければならない
・その他、装置型式指定規則の一部改正等

改造自動車に係る新規検査の際に提出する書面について等の一部改正について

国土交通省

・軽・中量車自動車排出ガス試験成績等の様式にPNに係る項目を新たに追加した
・シャシダイナモメータによるJE05モード及びWHTCモードにおける排出ガス測定方法にPNの測定方法を新たに追加するほか、所要の改正を行う

審査事務規程の一部改正について（第57次改正）

自動車技術総合機構

・電動パーキングブレーキ搭載車が増加していることに伴い、ブレーキテスタを用いた駐車ブレーキ計測について、全ての車輪がロックし、それ以上の制動力を計測することが困難な場合には、その状態で必要な制動力の総和を有しているものとする
・1998年9月1日以降に製作された自動車については、ヘッドライトテスタを用いた前照灯検査において、カットオフラインが確認できない自動車などに対応するための計測方法を変更し、対象車及び判定エリアを追加する

軽自動車検査協会検査事務規程の一部改正について

軽自動車検査協会

審査事務規程（第56次改正）の一部改正を踏まえ所要の改正（書きぶりの適正化等）を行う

「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」のフォローアップのための特別調査強力依頼

経済産業省

現時点で、2024年の春季労使交渉の賃上げ率は33年ぶりの高い伸びとなっているものの、今後、賃上げの流れを一層波及させ、構造的な賃上げを実現するためには、特に我が国の雇用の7割を占める中小企業がその原資を確保できる取引環境を整備することが重要。

2023年11月、内閣官房及び公正取引委員会は「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」（以下「本指針」）を策定したが、本指針をより実効的なものとするためには、発注者と受注者の双方が本指針に記載の「12の行動指針」に沿って対応することが重要となる。

2024年6月、公正取引委員会は、本指針の実施状況についてフォローアップするため、「令和6（2024）年度価格転嫁円滑化の取組に関する特別調査」（以下「令和6（2024）年度特別調査」）の調査票の発送を開始した。政府を挙げて高い回答率が求められる令和6（2024）年度特別調査に関して、御協力、御配慮をお願いする。

尚、調査票が届いていない企業も、公正取引委員会のウェブサイトから回答できるので、ご協力をお願いする。

＜詳しくは以下を参照＞

https://www.jftc.go.jp/partnership_package/tokubetsu/chosa.html

適正取引講習会のお知らせ

経済産業省・中小企業庁

経済産業省 中小企業庁では、中小企業、小規模事業者、フリーランスの皆様が、スムーズな価格交渉、価格転嫁を

進めることができるよう、下請法の内容や、価格交渉のノウハウを学んで頂くための各種講習会を無料で実施しており、適正取引講習会についてお知らせする。

■適正取引講習会 eラーニング

いつでも、どこでも、カンタンに

下請取引についての知識を基礎から動画で学べる、無料のサービスです。

各講習会の受講を証明する修了証を発行するので、企業研修等でのご活用も可能。

<eラーニング(動画)で学べるカリキュラム>

・下請法　基礎編：下請法についてわかりやすく学べる動画プログラム(所要時間:約2時間40分)
・価格交渉 基礎編：価格交渉を実施するためのノウハウを学べる(所要時間:約40分)
・価格交渉 実践編：実際の交渉に向けた準備や交渉術を学べる

■適正取引講習会

適正な取引環境実現のために制定されている下請法の理解と、価格転嫁を実現するための交渉方法を学べる2つのプログラムがある。

<「下請法 実践編」(オンライン)>

法律の専門家であり、かつビジネスに精通した弁護士が、下請法の詳しい内容や違反事例を具体的に解説。

<「価格交渉 基礎編」(対面またはオンライン)>

経営の専門家である、中小企業診断士が、価格転嫁を実現するための事前準備から交渉のポイントまでわかりやすく解説。

<開催日時>

講習会は、2025年3月まで毎月開催

<詳細は以下を参照>

http://tekitorisupport.go.jp/

2024年度運輸部門エネルギー使用合理化・非化石エネルギー転換推進事業費補助金のお知らせ

経済産業省・国土交通省

トラック事業者と荷主等が連携して取り組むことを要件として、輸送効率化システム(①,②)や高輸送効率車両(③)の導入に要する経費の一部を支援する。

① トラック事業者における車両動態管理システムの導入・活用
② トラック事業者や荷主等における予約受付システム等※配車計画システムの導入・活用
　※予約受付システム、ASNシステム、受注情報事前確認システム、パレット等管理システム、パレタイズシステム
③ トラック事業者や荷主等におけるダブル連結トラック、スワップボディコンテナ車両の導入・活用

【申請受付期間】

1次公募:

2024年6月24日㈪ 10:00 ～ 7月5日㈮ 16:00

2次公募:

2024年7月19日㈮ 10:00 ～ 7月31日㈬ 16:00

<詳細は以下を参照>

https://www.pacific-hojo.jp/2024r06/

デジタル推進人材育成プログラム「マナビDX Quest」のお知らせ

経済産業省

経済産業省では、地域企業・産業のDXの実現に向け、ビジネスの現場における課題解決の実践を通じた能力を磨くため、デジタル推進人材育成プログラム「マナビDX Quest」を実施する。

マナビDX Questは、

① 企業データに基づく実践的なケーススタディ教育プログラム(以下、ケーススタディ教育プログラム)
② 地域の中小企業との協働による、デジタル技術を活用した課題解決型の地域企業協働プログラム(以下、地域企業協働プログラム)からなり、受講料は無料。

6月10日から、今年度の①ケーススタディ教育プログラムの受講生の募集を開始している。自社のデジタル人材育成に取り組もうとされている企業の社員の皆様にご参加いただき、当プログラムを通して得られたノウハウ・知見を自社に持ち帰ることで、デジタル人材育成及び企業のDXの実現に向けご活用願う。

<詳細は以下を参照>

https://www.jabia.or.jp/news/15937/

※ 車体NEWS2024夏号「国土交通省地方運輸局」において、記載誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。
【P.22】 国土交通省地方運輸局
近畿運輸局　技術課長
誤) 宮下　博考 氏　→　正)吉岡　譲 氏

NEWS FLASH 月度活動状況

6月			
4日	トレーラ部会／製品安全委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② 安全点検整備推進雑誌広告及び自動車点検整備分解記録簿改定の検討 ③ 日整連経由全国整備事業者向け「火災注意&予防整備」のチラシ作成	▶P.7
7日	トラック部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 中央業務委員会報告内容の情報共有 ② 2024年度取組み内容についての論議	
10日	バス部会／ カラーユニバーサルデザイン(CUD) 勉強会(Web会議)	JABIA規格「バス乗客降車合図装置」改正検討時に考慮する CUDの勉強会を開催 1) 講師: カラーユニバーサルデザイン機構 伊賀星史CUDコンサルタント 2) 14社/23拠点/216名参加	▶P.7
11日	トレーラ部会／業務委員会(当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② 都道府県トラック協会2024年度トレーラ研修実績と計画の共有・確認 ③ 部会会員の困り事や課題の共有・論議	
	バス部会／ワンマン機器小委員会 (Web会議)	① JABIA規格「バス乗客降車合図装置」の改正検討 ② カラーユニバーサルデザイン(CUD)勉強会の振り返り	
12日	バス部会／ 技術委員会&ワンマン機器小委員会 合同会議(当会会議室+Web会議)	① 2024年度テーマ活動の確認及びJABIA規格・車体規格の改正検討 ② 協定規則、法改正動向の共有と対応及び他団体活動の共有 ③ 2024年度異業種工場見学会の見学先企業検討	
	中央業務委員会／中小会員NW強化 WG工場見学会(高知)	① ㈱兼松エンジニアリング工場見学 ② 事業計画の進捗状況の共有・論議	▶P.5
17日	第24回CN専門委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度活動計画の論議 ② 本部委員会／部会／支部活動進捗の共有、論議	
	中央業務委員会／安全衛生活動WG (Web会議)	① 2023年度活動の振り返り ② 安全衛生活動WG発足時(2015年6月)の資料共有・経緯確認 ③ 2024年度活動(災害事例集約及び工場見学先)の検討・論議	
18日	中央技術委員会／ 第3回CS/SU&コネクテッド検討WG (Web会議)	① 4/25 車体工業会 質問への回答内容論議 ② 合同検討会 残課題の共有・論議 ③ 290事例 再調査結果共有	
20日	資材部会／フィルムグループ (当会会議室+Web会議)	① 本年度のグループ活動の計画について件等 ② 過去の反射材についての経緯について情報交換を実施	
21日	特装部会／業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の推進状況の共有・議論 ② 第1回中央業務委員会報告内容の共有・議論	
	特種部会／合同委員会 (くるまプラザ会議室)	① 事業計画進捗状況の共有・論議 ② CN対応事例の共有	
	バン部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 中央技術委員会内容情報の共有 ② 2024年度調査研究テーマについての論議 ③ 2024年度工場見学会についての論議	
24日	特装部会／サービス委員会 (当会会議室)	メンテナンスニュースNo.58記載内容について議論	
	トレーラ部会／サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② 都道府県トラック協会2024年度トレーラ研修実績と計画の共有・確認 ③ 「トレーラ定期点検整備の手引き」・「トレーラサービスマニュアル」の改訂作業	
25日	環境委員会／架装物リサイクル分科会 (当会会議室+Web会議)	① 年間活動計画の進捗状況確認 ② 各種アンケートの内容、配信時期の確認(6/26配信)	
26日	トレーラ部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② CS/SU他関連外部団体の各種部会・委員会・分科会・WG等の共有・論議 ③ JABIA規格「トレーラに関する用語」の改正検討	
27～28日	特種部会／工場見学会(兵庫県)	① ㈱パトライト工場見学(6/27) ② ㈱モリタ工場見学(6/28)	▶P.5
28日	環境委員会／工場環境分科会 (当会会議室+Web会議)	① 年間活動計画の進捗状況確認 ② 各CN推進WGの活動内容の共有 ③ LCAの進め方確認	

7月		
3日	第1回中央技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② 協定規則の策定段階からの参画について論議 ③ バン部会技術委員会からの提案について論議
4日	第1回環境委員会 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況確認 ② 架装物リサイクル分科会の活動 環境ラベルのPR、取得推進他の状況報告、共有 ③ 工場環境分科会の活動 各種調査スケジュールの報告 CN推進WGの活動状況報告、共有
5日	第1回中央業務委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② 2025年度税制改正要望書の提案・承認 ③ 外国人技能実習制度改正対応3団体WG活動の共有 ④ 中小会員NW強化WG及び安全衛生活動WG・現地現物技能系社員研修の共有
9日	トラック部会／部会会議 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況情報共有と論議 ② CN活動状況についての情報交換 ③ 各委員会活動状況の報告
10日	特装部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② 各技術分科会2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ③ CNWG活動内容について報告
	バス部会／技術委員会&ワンマン機器小委員会 合同会議(栃木)	① 2024年度テーマ活動の確認及びJABIA規格・車体規格の改正検討 ② 協定規則、法改正動向の共有と対応及び他団体活動の共有 ③ 2024年度異業種工場見学会の見学先企業検討
	バス部会／ワンマン機器小委員会 (栃木)	① JABIA規格「バス乗客降車合図装置」の改正検討 ② 部品メーカー合同キックオフ&検討会#1の実施
11日	バン部会／部会会議 (当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況情報共有と論議 ② CN活動状況についての情報交換 ③ 各委員会活動状況の報告
	バス部会／業務委員会 (栃木+Web会議)	① 中央業務委員会(7/5)及びCN専門委員会(6/17)資料の共有 ② 2023年度第四半期活動及び2024年度4月部会総会の確認 ③ バス部会長報告(2/6)内容の共有
	バス部会／塗装デザイン研究会 (栃木+Web会議)	① 2024年度塗装技術者向け勉強会 イサム塗料㈱打合せ内容の事前確認 ② バス車体塗色見本帳2023年度販売実績の共有
12日	トラック部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 中央技術委員会内容情報の共有 ② 2024年度調査研究テーマについての論議 ③ 2024年度工場見学会についての論議
16日	トレーラ部会／製品安全委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② 安全点検整備推進雑誌広告及び自動車点検整備分解記録簿改定の検討 ③ 日整連経由全国整備事業者向け「火災注意&予防整備」のチラシ作成
	特装部会／サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	メンテナンスニュースNo.58構成内容検討
17日	特装部会／ダンプ車技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の確認と課題対応について論議 ② ダンプ車の荷台下降防止安全基準申請の審議 ③ CNWG活動内容について報告
	バス部会／塗装デザイン研究会 (Web会議)	2024年度塗装技術者向け勉強会 イサム塗料㈱との打合せ 1) 前回2018年度開催時の振り返り 2) 開催日程、開催場所、内容・カリキュラム、等の確認
18日	中央技術委員会／第4回CS/SU&コネクテッド検討WG(web会議)	① 4/25 車体工業会 質問への回答内容共有 ② 合同検討会 残課題の共有・論議 ③ 乗用車系事例調査結果と今後の進め方
	特装部会／クレーン技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の確認と課題対応について論議 ② CN活動に関する共通課題の情報共有
19日	常任委員会(当会会議室+Web会議)	① 80周年記念行事について ② 団体保険の検討について ③ 意思決定会議体の在り方について

19日	第277回理事会 (当会会議室+Web会議)	① 審議事項 第1号議案　新入会員に関する件 第2号議案　理事・副会長の変更に関する件 第3号議案　当会名義口座の残金繰り入れについて ② 相談事項 ・車体工業会 意思決定プロセスの在り方について ③ 報告事項 1) 本部・部会・支部別　事業計画1/4期実績まとめ 2) 1/4期 収支実績まとめ 3) 最近の商用車販売及び会員生産台数 4) その他報告事項 ・通常総会結果報告　・秋季会員大会について ・関係団体の会費等について　・欧州視察申込み状況 ・環境対応事例発表会(10月開催)について　・最近の官公庁情報
	トレーラ部会／サービス・業務委員会 都道府県トラック協会研修会(愛知)	愛知県トラック協会主催、36名参加 講師：石川サービス委員・福西業務委員長 ① トレーラの安全な使用(火災防止と車輪脱落防止) ② トレーラ関係法令改正内容の紹介と輸送効率向上、横転抑制装置の有効性
22日	トレーラ部会／サービス委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② 都道府県トラック協会2024年度トレーラ研修実績と計画の共有・確認 ③ 「トレーラ定期点検整備の手引き」・「トレーラサービスマニュアル」の改訂作業
23日	特装部会／CN WG (当会会議室+Web会議)	① CO_2排出量調査回答用の手引書内容の論議・決定 ② 今後の進め方論議
	バス部会／塗装デザイン研究会 (Web会議)	2024年度塗装技術者向け勉強会(イサム塗料㈱)展開資料の作成 ①　開催案内　② 参加申込書　③ 当日カリキュラム
	トレーラ部会／サービス・業務委員会 都道府県トラック協会研修会(高知)	高知県トラック協会主催、16名参加 講師：吉村サービス委員長・福西業務委員長 ① トレーラの安全な使用(火災防止と車輪脱落防止) ② トレーラ関係法令改正内容の紹介と輸送効率向上、横転抑制装置の有効性
25日	特装部会／脱着キャリアコンテナ技術分科会(当会会議室)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の確認と課題対応について論議 ② 新型キャリア審査結果について報告 ③ キャリア・コンテナ互換性定期審査の実施について確認 ④ 多目的コンテナ普及を目的としたパンフレットの原案・構成内容について論議 ⑤ CN活動の取組について論議
26日	中央技術委員会／突入防止装置技術委員会(当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況共有・論議 ② 中央技術委員会論議内容の共有
	中央技術委員会／テールゲートリフタ技術分科会(当会会議室+Web会議)	① 事業計画の進捗状況共有・論議 ② 中央技術委員会論議内容の共有
29日	特装部会／粉粒体運搬車技術分科会 (当会会議室)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の確認と課題対応について論議 ② 共通課題の情報共有及び対応検討について論議 ③ CN活動の取組みについて論議
30日	小型部会/技術委員会(当会会議室)	技術情報交換会の進め方についてを議論
	資材部会/難燃性試験実態調査委員会 (埼玉)	① カケンセンターで難燃性試験の研修を実施 ② 2024年度以降の実態調査の検討
	特装部会／塵芥車技術分科会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の確認と課題対応について論議 ② 塵芥車の製作基準(JABIA-P1701)の見直しの緊急停止装置の施行状況確認 ③ CN活動の取組みについて論議
31日	特装部会／ローリ技術分科会 (当会会議室)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の確認と課題対応について論議 ② 関連メーカー及び団体との情報交換について論議 ③ CN活動の取組みについて論議
	トレーラ部会／技術委員会 (当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② CS/SU他関連外部団体の各種部会・委員会・分科会・WG等の共有・論議 ③ JABIA規格「トレーラに関する用語」の改正検討

8月

2日	中央技術委員会／臨時CS/SU&コネクテッド検討WG(当会会議室+Web会議)	乗用車系法規適合方法の論議

6日	中央技術委員会／第1回車両後退通報装置検討WG(当会会議室+Web会議)	① 保安基準細目告示の改正内容について確認 ② 新規検査等届出書への記載について論議 ③ 会員向け資料の作成について論議
7日	中小会員NW強化WG／営業マン勉強会キックオフ(当会会議室+Web会議)	① テーマ決定の背景共有 ② テーマに対するチーム論議
	中央業務委員会／安全衛生活動WG(Web会議)	① 2024年度活動の検討・論議 ② 災害事例集約テーマ及び工場見学先の検討・論議 ③ 会員代表者の安全意識の更なる醸成つくりに関する検討・論議
21日	特装部会／サービス委員会(当会会議室+Web会議)	メンテナンスニュースNo.58原稿最終確認
22日	中央技術委員会／第5回CS/SU&コネクテッド検討WG(Web会議)	乗用車系法規適合方法の論議
23日	特装部会／ミキサ車技術分科会(当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の確認と課題対応について論議 ② CN活動の取組みについて論議
27日	トレーラ部会／サービス委員会(当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② 都道府県トラック協会2024年度トレーラ研修実績と計画の共有・確認 ③ 「トレーラ定期点検整備の手引き」・「トレーラサービスマニュアル」の改訂作業
	バス部会／ワンマン機器小委員会(Web会議)	① JABIA規格「バス乗客降車合図装置」の改正検討 ② 部品メーカー合同検討会#2に向けた改正案の作成
28日	環境委員会／架装物リサイクルWG(当会会議室+Web会議)	① 年間活動計画の進捗状況確認 ② 各種アンケート集計結果の確認、共有
29日	バン部会／業務委員会(当会会議室+Web会議)	① 中小会員支援状況の情報共有・論議 ② 各社のCN担当者を招いて勉強会を実施
	トレーラ部会／技術委員会(当会会議室+Web会議)	① 2024年度事業計画の1Q進捗状況の共有・論議 ② CS/SU他関連外部団体の各種部会・委員会・分科会・WG等の共有・論議 ③ JABIA規格「トレーラに関する用語」の改正検討

会員情報

■入　　会　正会員　**㈱マツダE&T**
代表取締役社長　清角　肇
〒734-0026　広島県広島市南区仁保2-1-26　TEL. 082-283-4730
【主要製品】　福祉車両、教習車、緊急自動車　　【所属部会】　特種部会

■代表者変更

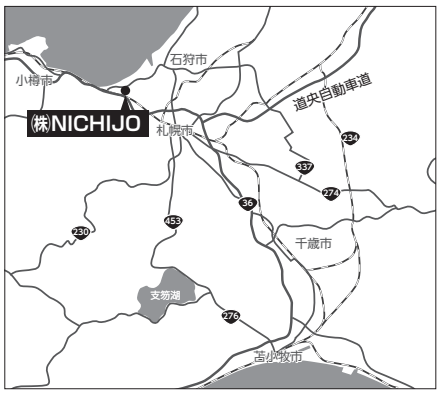
正会員	**㈱アイビックス**	代表取締役社長	濱場　洋一
	京成自動車工業㈱	代表取締役社長	吉原　祐一
	埼玉自動車工業㈱	代表取締役社長	鍋田　とみ子
	ジェイ・バス㈱	代表取締役社長	西原　正人
	昭和飛行機工業㈱	代表取締役	森本　大
	㈱トーワ・自工	代表取締役	森　秀暢
	㈱トノックス	代表取締役社長	殿内　崇生
	㈱トヨタカスタマイジング&ディベロップメント	代表取締役社長	西脇　憲三
	トヨタ自動車九州㈱	取締役社長	長木　哲朗
	㈱中北車体工作所	代表取締役社長	福島　吉隆
	㈱中村ボデー	代表取締役	中村　将士
	西鉄車体技術㈱	代表取締役社長	川下　英次郎
	日産車体㈱	代表取締役社長	冨山　隆
	㈲橋自動車工業所	代表取締役	橋　豊和
準会員	**小松マテーレ㈱**	代表取締役社長	中山　大輔
	セントラル硝子プロダクツ㈱	代表取締役社長	川瀬　将昭
	泰平電機㈱	代表取締役社長	西田　一成
	タキロンシーアイ㈱	代表取締役社長	福田　祐士
	東洋電産㈱	代表取締役社長	大村　豊樹
	フクビ化学工業㈱	代表取締役 社長執行役員COO	森　克則

NET WORK

会員会社紹介

Vol.116

宮澤　和孝　代表取締役



DATA

■本社　〒006-0835
北海道札幌市手稲区曙5条
5丁目1番10号
TEL　011-681-3115
FAX　011-682-1326
URL　https://www.nichijo.jp/

■資本金　1億2千万円

■従業員　336名

■事業所規模

敷地：	本社・曙工場	25,088㎡
	稲穂工場	9,197㎡
工場：	本社	3,351㎡
	曙工場	6,448㎡
	稲穂工場	3,489㎡

■車体工業会加入
2020年10月（特装部会）

NICHIJO

㈱NICHIJO

優れた製品を顧客へ提供することで地域社会の生活環境の向上に貢献

雪国のライフラインを守る除雪機械の製造メーカーとして、1952年に札幌に誕生。多雪地帯で培われた独自の技術力で、陸上交通の安全で円滑な流通を支え、地域社会の発展に貢献する。

車体工業会　小森　啓行

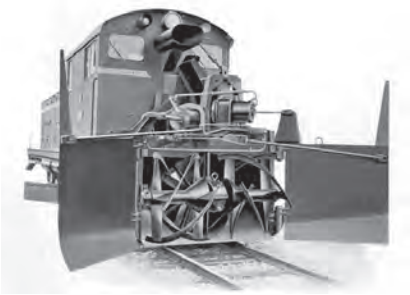
特徴・沿革

㈱NICHIJOの設立は1962年、その成り立ちは前身である三和興業㈱に遡る。三和興業㈱は留萌鉄道㈱出資により1952年に設立され、雪国では避けては通ることの出来ない積雪の課題に対し、積雪寒冷地用ディーゼル気動車やロータリ式ディーゼル除雪機関車を開発し、多雪地帯の陸上交通の安全で円滑な流通を支え、地域社会の経済発展に貢献した。

1960年には、北海道開発局より、除雪機関車の特性を生かした道路用除雪車の試作車両を受注し、北海道初の自動車メーカーとして国産初の自走式ロータリ除雪専用車「HTRシリーズ」の初号機、「HTR1形ロータリ除雪車」を製作し納入した。

製品開発における幾多の挫折と成功から培われた経験を礎とした技術力で、雪国の新たな時代を切り開いた。

以降、日本除雪機製作所としてロータリ除雪車を主力にした総合特殊車両メーカーとして、製品の改良と開発を続け、2018年に現在の「㈱NICHIJO」へ社名変更し現在に至る。



ロータリ式ディーゼル除雪機関車

HTRシリーズ初号機

製品

― 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

弊社の事業は大きく3つの区分に分かれています。

1つ目は「ロータリ除雪車・凍結防止剤散布車」で、弊社の主軸となる事業です。

2つ目は「軌道関係車両」です。除雪用車両が多いですが、軌道の保守・点検に使用される車両も製作・納入しています。

3つ目は「特殊車両」です。具体的な製品名としては、「重量物運搬車」「製鉄所向けダンプトラック」があります。

ロータリ除雪車

ロータリ除雪車　作業風景

― どのような製品を手掛けているのでしょうか?

「重量物運搬車」が特徴的な製品で、除雪車・散布車もしくは軌道車とは異なり、積雪が稀な地域に納入されることが多く、通年で稼働する車両です。油圧技術を応用した車両で、納入先によって仕様が異なります。

どの事業のお客様も、昨今は、オペレータ不足の問題を抱えていて、数年前から自動化・省人化に関連する技術の付加を要望されることが増えてきました。この要望に応えるべく研究開発を進めています。

凍結防止剤散布車

重量物運搬車

― 御社の設備の特徴についてお聞かせください。

自前のテストコースを所有し、主に道路用の車両の試験に使用し、舗装路での走行性能試験の他、積雪期には除雪試験も実施しています。

また、軌道用の車両を製作しているので、工場敷地内にレールを敷いています。工程間の移動にも使用しているため、建屋間は接続されています。

軌道モーターカー

高性能除雪モーターカー

― 御社の経営方針は?

除雪関連製品をはじめ、各種保守車両、大型特殊車両の開発・製造を通じ、地域社会の交通確保・ 大規模工場等での物流の効率化に貢献していくことを使命と考えています。

当社には若い力と新しい発想が溢れています。このパワーを蓄積された経験・技術と融合し、新たなステージへの挑戦を継続していきます。

人

― 御社の特徴は?

平均年齢が若く、活気にあふれた会社です。ものづくりの会社であるため、より良い製品をお客様へお届けするという使命感が強いのも特徴の一つです。

若手社員の比率増加による技術・知識レベルの低下という課題に対応するため、熟練技能者による技術伝承のほか、生産現場に基礎教育を学べる「ものづくり道場」を設置し、

新入社員は入社後数カ月間ものづくり道場にて基礎教育を学べる機会を設けています。

― 次世代の教育について

年長者・熟練者の保有している技術、知識・知恵が上手く継承されない課題に直面した経験から、過去の苦労話や開発当時の経験を共有し、文書化する取組みをしています。

高まる冷房ニーズに柔軟に対応

エバスペヒャーミクニクライメットコントロールシステムズ㈱

ミクニグループは1923年に輸入商社の三國商店として創立、1936年に工場を稼働して以来、ものづくり企業として成長してきた。空調システムの提供を行う、エバスペヒャーミクニクライメットコントロールシステムズ㈱（以下EMCC社）は、ドイツに本拠を置くエバスペヒャー社の自動車・バス・トラック用のヒーターをミクニの販売網で日本国内へ供給するために2013年に設立された。

EMCC社は2016年にクーラー事業を開始。トラックキャビンのリヤガラス部分に取り付けるパーキングクーラーは、日本独自の設計で室内機と室外機のサンドイッチ構造を用い、エンジン停止時でもバッテリーで動作する。

2018年、エバスペヒャー本社は仏カロリ社を買収し、エアコン事業を強化する。エアコンシステムに関する各部の製品をラインナップしている点を強味とし、コストメリットが大きい既製品を柔軟に組み合わせることで、一品一様の架装に合わせたエアコンのレイアウトができる。

待ったなしの冷房ニーズに対応

1.6kwのパーキングクーラー

真夏の暑さは車の窓を開けて凌げる時代ではなくなった。ドライバーは熱中症を避けるためにエアコンを使わなければならないが、荷主からのCO_2削減要請や近隣住民からの騒音苦情等で待機中にアイドリングができない場所も多い。

2024年の働き方改革で、涼しい早朝夜間の勤務が減り、日中に待機せざるを得ないケースも増えている。

EMCC社は、2016年に発売した0.8kwのパーキングクーラーでは冷房能力が足りなくなってきたため、2022年に倍の1.6kwへ出力アップした製品を出して対応している。

兪 貴裕	菅野 良太	杉山 進太郎
事業開発部 主任	営業部 課長	技術部 空調システムGr 課長

「スプリットクーラー」の開発

熱中症対策を含めた労働環境の改善は、経営上の緊急の課題となっており、多くの商用車で冷房ニーズが高まっている。「スプリットクーラー」は、EMCC社が持つエアコン部品の豊富な製品ラインナップを柔軟に組み合わせることで、顧客が求める様々な冷房システムを提供している。

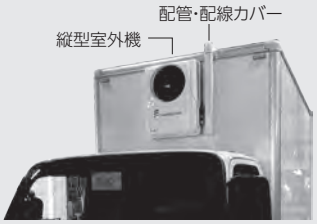
○ バスドライバー用クーラー

・運転席真上の天井に取り付けられ、真下に冷風を吹き出す
・室外機はバスの屋根に設置

アイドリングできないターミナルで待機する際に、運転席だけをスポット的に冷やすことができる。外気温40℃時に18℃の涼しい風を送り、ドライバーから大好評を得ている。

○ 庫内作業者用クーラー

配送業者の庫内作業も危険な環境になりやすい。荷室前部に室外機を配置、庫内に室内機を設置し、冷風を吹き出すことで作業者の熱中症対策に寄与するクーラーシステムである。



大型トラックでは、庫内全体を冷やすことは難しいので、荷室出入口に吹出口を設置して、冷風カーテンを作り、荷役者が通過した時に冷たい風が当たるスポットクーラー化する工夫がされている。

1.6kWのパーキングクーラーにはトラック協会の助成金が使え、燃費削減効果もある。使い方次第で2年程度で採算が取れる可能性もあり、冷却効果・燃費削減効果を見える化できるシステムの開発も進められている。

猛烈な暑さが続く中で、各事業者からの引き合いも多く、140社を超える全国の代理店や架装メーカーでの取付けトレーニングや迅速な施工・納品の体制作りに尽力している。

エバスペヒャーミクニクライメットコントロールシステムズ㈱
社長　渡邊 康高
EMCCはより良い空調製品をこれからも皆様に提供し、快適な労働環境づくりに貢献していきます。
【本社】〒250-0055 神奈川県小田原市久野2480番地
Tel: 0570-083-392　https://www.eberspaecher-climate.com/jp/ja

私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。
「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

センサーは超音波からミリ波レーダーへ

㈱日本ヴューテック

トラック用後付けバックカメラで知られる㈱日本ヴューテックは、ジャパントラックショー2024で先進的な製品群を展示、今後の安全装置に対する方向性を強くアピールした。

トラック用バックカメラの黎明期からビジネスを展開してきた㈱日本ヴューテックは、数年前からミリ波レーダーを始めとする新しい安全装置製品に注力していた。

後方障害物検知システム「TRN-G44」

ミリ波レーダーは高速な応答性と高精度な測距性能が非常に高く、超音波センサーが苦手としている雪や霧の影響を受けにくいので障害物の検知に大変優れている。

この正確な検知技術を、トラック向けの後方障害物検知システムに採用したのが「TRN-G44」である。従来の超音波センサーはトラック後方の4～8カ所に設置する必要があったが、ミリ波レーダーは1カ所の設置で完了するため取付けも簡単になっている。

夜間や豪雨、霧等の状況下で、超音波センサーでは検知できなかった危険を察知できる。レーダー照射範囲を手元で3段階に切り替えることもでき、バックカメラの映像と連動し、ドライバーへの正確な情報伝達が最大のメリットである。

既存トラックに後付けができれるので、発表以来、架装メーカーや運送業者等から、問い合わせを多く受けている。

レーダーの取付けは角度のセッティングが重要となる。レーダー波は目で見えないため、最適な取付位置を見つけるために計測と調整を繰り返さなくてはならない。㈱日本ヴューテックは車種ごとの豊富な取付事例をデータ化して、取付情報を余すことなく公開していく予定だという。

松波 登　代表取締役　　川出 隆　専務取締役

Driver Monitoring System（DMS）「MDSM-22」

ヨーロッパではDMSの装着が義務化された

「MDSM-22」は運転手側に向けた赤外線カメラによって、ドライバーの動きや状態を監視するDMSである。

AIによるディープラーニングで、顔の筋肉の細かな動きを精査し、あくびや脇見等の運転上の危険をドライバーに警告する。ヒューマンエラーによる事故を効果的に防ぐことが期待され、ヨーロッパでは装着が義務化されている。

ヨーロッパ基準のDDAW※1認証を受けており、シートに装着するバイブレーションバーを使うことで、音声ではなく振動でドライバーに通知することもできる。同乗者に不安を与えないので、バスやタクシーでの展開も期待される。

※1 DDAW（Driver Drowsiness and Attention Warning）
ドライバーの眠気注意力警告システム（DDAW）。DDAWの技術要件では警報閾値と主たる眠気測定方法がカロリンスカ眠気尺度（KSS）で規定されている

衝突防止支援システム「MRV-21」

衝突防止支援システム「MRV-21」は、単眼カメラの映像解析とミリ波レーダーを併用し、暗闇・逆光・豪雨・大雪などの悪条件下でも、前方の物体の形状や距離を検知してドライバーに正確に伝えることができるADAS※2製品である。

※2 ADAS（Advanced Driver-Assistance Systems,先進運転支援システム）
ドライバーの安全・快適を実現するために自動車自体が周囲の情報を把握し、ドライバーに的確に表示・警告を行ったり、ドライバーに代わって自動車を制御するなどの運転を支援する機能の総称

昨年9月のバックカメラ装着義務化（UN-R158）により、基準を満たさないカメラの装着が認められなくなった。

㈱日本ヴューテックのカメラは今年の3月に国土交通省の型式認証試験を受け、奇しくもトラックショー初日の5月9日に装置型式指定製品として承認された。

早めに規制の情報を得て対応することが、製品開発に重要であることをあらためて実感し、これからも一歩先を行く製品と戦略で交通の安全を担っていく。

㈱日本ヴューテック　代表取締役　松波 登
技術とひらめきを安全に
【本社】〒211-0041 神奈川県川崎市中原区下小田中3-26-6　Tel：044-777-7771
https://www.nvt.co.jp/

そこが知りたい 第62回 ライドシェアとは?

夏号では「カーシェアリング」を取り上げたが、今号では「ライドシェア」について報告する。

Q1 ライドシェアとは?

- ライドシェア(ride-share)は、「ライド=乗る」を「シェア=共有」、「相乗り」や「配車サービス」を指し、自家用車の所有者と自動車に乗りたい人を結び付ける移動手段
- もともと、純粋な相乗りの「カープール」等が行われていたが、スマートフォンの登場・アプリの使用により、リアルタイムでのマイカードライバーと客のマッチングが可能になり、現在では、「ライドシェア=スマートフォン活用のマッチングサービス」を指す場合が大半
- 現在主流のライドシェアは、大きく「TNC型」と「PHV型」に分類。TNC「Transportation Network Company」は、国は関与せず、Uberのような配車プラットフォーマーがドライバー管理や運行管理を行う。ドライバーにとって自由度高いPHV「Private Hire Vehicle」は、個人タクシーの派生形のような形式。各国規制によりライセンス取得や登録など一定要件必要。プラットフォームに関係なく、各ドライバーに対し当局が直接規制をかける

Q2 ライドシェアのメリット・デメリットは?

利用者(客)	メリット	タクシーより運賃は2～3割安く、事前確定、キャッシュレス決済 アプリ利用により、言語の壁が低く目的地指定容易で海外利用がし易い ドライバーをアプリ上で評価でき、雑な応対が少ない
	デメリット	ドライバーの暴行や盗撮等のトラブル可能性、ドライバーがプロでなく交通事故リスク
提供者(ドライバー)	メリット	時間と資産(車両)有効活用と収入獲得、空き時間活用の副業・本業ニーズを満たす
	デメリット	プラットフォーマー依存で、補償なく失職、運賃低下や手数料増額等のリスク

Q3 海外のライドシェアはどうなってる?

- 主に3つに類型化され、未開放の国もあり

TNC型	北米、中国、ブラジル、オーストラリア、東南アジア等
PHV型	ドイツ、英国、ポルトガル等。他にフランスやスペインでは運転手付き観光ハイヤー制度、オランダやスウェーデン等はタクシーライセンス必要だが自家用車使用可等、複数パターン
認めず	(タクシーに限定)韓国、ギリシャ、イスラエル等

<世界ライドシェア市場規模予測(10億$)>

出展:PRECEDENCE RESEARCH

<海外展開大手企業>

USA	Uber Technologies	2009年設立。世界70か国でマッチングサービスを提供。2023年通期はウーバーイーツ等含む配車総数94億回、2019年上場後初の黒字化を達成。自動運転にも意欲的で、日本でも京都府京丹後市と石川県加賀市で自家用有償旅客運送に基づくサービスを提供
	Lyft	2012年設立。北米でUberと競合の一方、他国主体のDiDiやGrubなどと提携
中国	Didi Chuxing(滴滴出行)	世界15か国で配車サービス展開。中国市場を掌握し配車回数はUberを凌ぐ 日本でもソフトバンクと合弁し、2018年にタクシー配車サービスを開始
アジア	Grab	2012年設立。シンガポールに本拠を構え東南アジア8か国の500都市以上でサービス展開

Q4 日本のライドシェアは?

・日本では、これまでライドシェアは「白タク行為」に該当し、厳正に対処されていたが、日本独自制度としてNPO法人等の運行を認める自家用有償旅客運送が2006年に整備。更に2023年に潮目が変わり、タクシーの供給不足などを背景に、一気にライドシェア議論が再燃

・議論の結果、タクシーが不足する地域又は期間を限定し自家用車・一般ドライバーを活用する、「日本版ライドシェア」の第一歩が2024年4月より運用開始。但し、主体はタクシー事業者であり、一般ドライバーの教育や運行、車両整備管理等全面的に運送責任を負う

・4月から6月にかけ、首都圏、京阪神、札幌、仙台、名古屋、広島、福岡で順次開始され、その他エリアも、簡便な方法による不足車両数の算出とタクシー事業者の意向がある場合に開始予定
また、サービス提供要件に、降水量予報の時間帯を追加等、バージョンアップも行われている

・タクシー事業者以外が参加可能なライドシェア制度に向けては、安全面等を中心に慎重な意見もあり、継続した議論が行われている

<日本の主な展開企業>

博報堂	「ノッカル」サービス展開	地域の移動課題解決に向け、富山県朝日町や富山県高岡市、2024年に静岡県浜松市、東伊豆町、山形県西川町で「ノッカル」サービス開始
パブリックテクノロジーズ	過疎地ライドシェアを推進	自治体向けスーパーアプリ事業や公共交通事業を展開。活力ある地方を創る首長の会が提言する「自治体ライドシェア i-Chan」のパートナー企業に選定され、石川県小松市の「小松市ライドシェア」実装に携わる
GO	自家用車活用事業への参入	国内タクシー配車サービス最大手のGOは、いち早く自家用車活用事業への参入を表明し、既に新制度に対応したマッチングサービスを実施中。 自家用車活用の対象エリアで、既存の「GO」アプリでその車両も案内
Uber Japan	自家用車活用事業への参入	GO同様に自家用車活用事業の導入支援としてUberアプリを東京・神奈川・愛知・京都の約10社の提携タクシー事業者に提供。アプリ上では、ライドシェア車両を「自家用タクシー」と表示
S.RIDE	東京都内で自家用車活用事業参入	ソニー系のS.RIDEは、国際自動車と大和自動車交通による自家用車活用事業の運行車両への配車を、東京23区と武蔵野市、三鷹市で4月に開始。配車指定画面でライドシェア車両を「含む」「含まない」を選択可
Newmo（ニューモ）	ライドシェア事業に参入	24年1月に前メルカリ日本事業責任者が設立のモビリティテクノロジー企業newmoが、大阪のタクシー業者を買収、ライドシェア事業への参入表明

Q5 ライドシェアの今後は?

・「ライドシェア経験者は賛成、未経験者は反対」というアンケート結果の情報もあるが、ライドシェアのグローバルな急拡大が見込まれる中での海外からの観光客の増加、また、日本のタクシー・ドライバー不足と地方公共交通の枯渇、そこにIT化・DXの流れ、マッチングアプリの行先指定等の言葉や決済の利便性等鑑みるに、ライドシェアは日本でも拡大の可能性がある

・将来的な自動運転ライドシェアへの移行期とも言われ、人々の多様な移動ニーズへの対応として、動向を注視したい

<S.RIDEのスマホ配車指定画面>

ライドシェアを「含む」画面指定

働くクルマたち

第46回：放送中継車

社会に欠かすことができない車体工業会会員が製造している多種多様な「働くクルマたち」について、毎回車種を選定し、その特徴等、日頃は目にしないところを含めて紹介していく。

第46回目は放送中継車について京成自動車工業㈱、松電通信㈱から紹介する。

1. 放送中継車とは

放送中継車は特種用途自動車の一種でその主要要件は、

⑴ 放送のための音声、映像装置、調整室を有する

⑵ 中継施設までの送信設備を搭載している

⑶ ⑴、⑵のために必用な動力源を有している

となっている。

種類は多岐にわたっており、現在日本国内には600台程度の放送中継車が存在しているが、その用途や目的で分類すると、

・一般制作番組(スポーツ、音楽番組等)

・報道番組(ニュース、現地からの素材伝送)

の二つに分類される。

更に細分化すると、衛星中継車、テレビ中継車、通信中継車、ラジオ中継車、取材車、その他という分類となる。いずれも番組制作にはなくてはならないものだが、近年1台で多機能化の要求、番組制作経費削減等により減少方向にある。

2. 歴史

情報提供：京成自動車工業㈱・松電通信㈱

最初の中継車は、1920年～30年代にラジオ放送のために使用された。アメリカやヨーロッパのラジオ局が、スポーツイベントや重要な出来事を現地から中継する為に使用したのが始まり。テレビの普及とともにテレビ中継車の需要が高まり、1952年に国内初のテレビ中継車が完成。当時は放送機器単体が非常に大きく白黒カメラ1台から2台でスポーツ中継に使用していた。1959年皇太子ご成婚パレード前後から民放キー局が中継車を所有。1964年東京オリンピックを経てカラー化。1980年代に入りほぼ現在の基本形といえる複数台カメラとスイッチャー、VTRといった基本機器が1台の車両に搭載された中継車が一般化した。

現在は、ハイビジョン放送(HD)、デジタル規格化による4K・8K放送、IP(インターネットプロトコル)技術を利用したデータのリアルタイム送信等性能が飛躍的に向上している。

1980年代前半の放送中継車

NHK

日本テレビ

3. 主な特徴と種類

1)移動性

車両であることから、どこにでも移動できることにより、リモートロケーションでの中継や取材が可能

2)設備

カメラ：　高解像度のビデオカメラが搭載されており、複数のカメラアングルからの映像が収録可能

音声機器：マイクロフォン、ミキシングコンソール、オーディオプロセッサなど、音声収録と処理のための機器が備わっている

電源供給：内蔵の発電機や外部電源に接続できるシステムを保有し、どんな場所でも必要な電力確保が可能

編集設備：現場での映像・音声の編集が可能な編集システム搭載

3)主な使用シーン

ニュース報道(リアルタイムで視聴者に情報提供)、スポーツイベント(複数のカメラからの映像をリアルタイムで提供)、コンサートやライブイベント(音楽コンサート等を高品質な映像と音声で提供)、特別イベント(大規模パレード、祭り等の現場中継)

4. 主な放送中継車

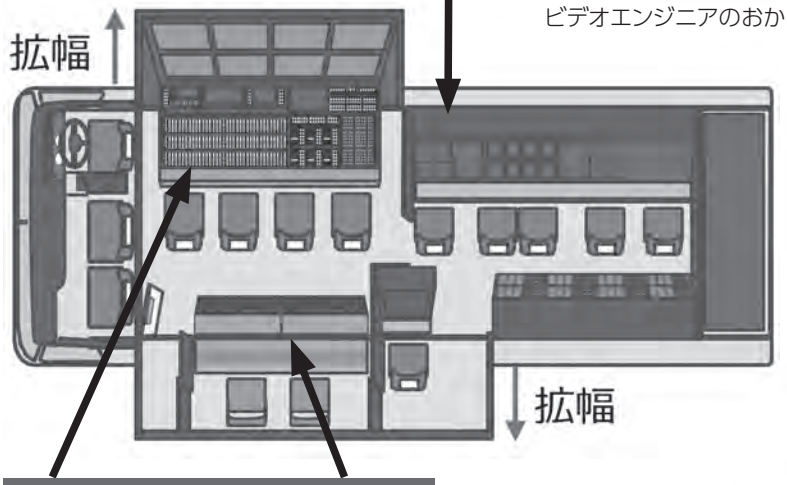
情報提供：京成自動車工業㈱・松電通信㈱

テレビ中継車
（マラソン中継車）

衛星中継車
（SNG※1中継車）

※1 SNG:Satellite News Gathering
通信衛星を利用したニュース現場からの映像・音声の送信システム

テレビ中継車の車内



VE ラック

ビデオエンジニア（VE）が担当する映像調整装置。操作盤は引き出し式になっていて、本番中のカメラ映像の明るさや色を調整する。
ビデオエンジニアのおかげで、現場のカメラマンは撮影に集中できる。

スイッチャー卓（奥）、スロー卓（手前）

奥にはスイッチャーがすわり、複数の現場カメラが撮影した映像から必要なものを選択し、目的に合った映像に切り替える。カメラマンの位置や撮影角度などの指示もここからおこなう。
スイッチャーのサポート役は手前にすわり、スローモーションの再生映像、差し込み映像、テロップなどを制作する。

FPUアンテナ

地上の受信基地局を経由して放送局へ情報を伝送するときに使うアンテナ。クリアな電波を送るため、アンテナを接続したポールを10mほどの高さに伸ばして発信する。

SNGアンテナ

南南東方向の赤道上空3万6000Kmに浮かぶ通信衛星（静止衛星）へ情報を飛ばすためのアンテナ。衛星の位置はコンピュータで自動検知する。

5. 放送中継車の今後

限られた車内空間の中で多種多様にわたるお客様要望の実現、搭載するシステム機器の冷却方法の改善、車両及び動力となる発動発電機等の環境問題への対応等を実施することで、お客様（制作、技術両スタッフ）の基地となる放送中継車をより完成度の高いものを作り上げていきたいと考えている。

6. バン型トラック車両年度別生産台数

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
衛星中継車	15	11	4	34	35	8	3	25	4	2
テレビ中継車	31	26	20	27	25	21	28	7	12	15
通信中継車	6	0	3	6	0	9	9	4	0	2
ラジオ中継車	1	1	5	0	1	1	0	0	2	0
取材車	0	1	0	6	2	1	0	1	1	0
その他	2	2	1	4	3	2	0	0	0	1
合計	55	41	33	77	66	42	40	37	19	20

（台）

Member's Essay
COFFEE BREAK

バスケットボールの楽しさを伝えたい

光伸㈱　神森（かみもり） 麻衣（まい）

私は小学校の時にバスケットボールを始めました。自分一人だけが攻めたり守ったりするのではなく、仲間と共に協力して戦っていくバスケットボールの楽しさに惹かれました。また、バスケットボールを通じて、技術面だけでなく、忍耐力が強くなったこと、チームワークの大切さやコミュニケーション能力の向上等の人間性を高めることができました。始めて以来バスケットボールから離れた時間がないので、生活の一部となっているくらいバスケットボールが今でも大好きです。

現在私自身選手としてプレイはしていませんが、自分の子供がバスケットボールを始めたので、保護者会として今でもバスケットボールに携わっています。週末はほとんど練習や試合があるので、子供たちが一生懸命プレイしているのを見たりできること、時に子供たちと一緒にバスケットボールをすることが今の楽しみのひとつです。時にふと子供たちのバスケットボールしている姿を見て、昔このプレイなかなか出来なかったなとかよくコーチに怒られたなと苦い思い出も蘇ることもありますが・・・(笑)

これからもバスケットボールに携わって私自身楽しむこともそうですが、子供たちがバスケットボール楽しい！と思えるように、そして技術面の向上も大切ですが、バスケットボールを通じて仲間の大切さやコミュニケーション能力の向上等、人間としても成長していくために全力でサポートしていきたいなと思っています。

現在日本の中でもバスケットボールに関してとても注目されていて、テレビでも試合が見る機会が多くなり、よく家族で試合を観戦しています。なかなか予定が合わず、実際に観戦しにいくことが出来ていませんがいつか家族で観戦しにいきたいなと思っています。

模型グライダー競技「F3B」

トヨタ自動車九州㈱　総務部　藤田（ふじた） 光行（みつゆき）

「遠賀川 土手の向こうに～」と聞いたら「ボタ山の～」と続けたくなりますが、私は模型グライダー競技「F3B」の練習に、週末は遠賀川の河川敷へ足を運んでいます。

F3Bは、空気の上昇気流を利用して飛ぶ模型グライダーの滞空時間や飛行速度などを競うもので、国際航空連盟が定めたカテゴリーです。無線のコントローラーを使って翼の角度を微調整し、両翼3mほどの機体を地上から操ります。遠くから見るとトンビが飛んでいるように見えると言われることも多いです。

この競技の特徴は、動力を持たない機体を空高く舞い上げるところです。そのためにウインチ（大きい電動釣具のようなもの）を地上に置き、機体をテグスで引っ張って離陸させます。操作する人だけでなく、飛び立つ機体を保持する人、テグスを引っ張るウインチを動かす人が必要で、仲間とともに日頃からチームを組んで練習しています。時間の管理や、着地点までのガイドといった、競技中のさまざまな役割もチームメイトが担ってくれます。気温や風など自然を相手にすることに加え、そうやって仲間と力を合わせるのもF3Bの魅力の一つです。

普段使っている競

技用の機体はウクライナやドイツなど欧州のメーカーから取り寄せていて、軍事用の技術が入っていることもあり、非常に精巧につくられています。機体の維持管理や修理はもちろん、翼の角度を動かすプログラミングも自分で行いますので、ものづくりの腕が試されます。

幼い頃から空を飛ぶものが好きでラジコン模型でよく遊んでいました。学生時代に打ち込んだテニスや、長男がやっていた野球のサポートで片手間になった時期もありますが、長年続けてきたF3Bは生活の一部です。私が所属しているのは20年くらい前に発足したクラブで、国交省から許可をもらっている遠賀川の河川敷の一角がここ数年の練習場所。九州各地から年代も仕事も異なるメンバーが集まってワイワイ活動しています。

また明日から頑張ろう

㈱エクシング　首都圏センター　町田（まちだ） 潤治（じゅんじ）

子供のころから歌が好きで学生時代は合唱団に所属していたり、カラオケにハマったりしていました。

社会人になってからは好きなアーティストのライブに行くようになりました。昔はライブのチケットは電話での予約が主流で何十回かけても繋がらず、繋がったと思ったら「予定枚数は完売です」といった感じで、ライブチケットを取るのは至難の業でした。しかし今はネットでの抽選が可能になりファンクラブに入会していない人でも普通に当選できるようになりました。コロナ禍で厳しかった2020～21年の2年間を除いては、ほぼ毎年ライブを観に行っています。

ライブ会場ではグッズ売り場や特設の撮影スポットなどが用意されており、開演までの時間を楽しめるようになっています。人気の高いTシャツやタオルは完売してしまうので会場に着いたら先ずグッズ売り場に直行し行列に並びます。売り場近くに設置されてるガチャガチャもツアー限定の商品なので人気があります。

ライブ会場の外にはツアーデザインのラッピングトラックが止っていて、周辺にはトラックをバックに記念撮影する観客の人だかりができています。余談になりますが私の仕事がラッピングに関わる仕事もしているため、デザインや細かい部分が気になってしまいます。

何といってもライブの醍醐味は数々の代表曲を目の前で歌ってくれる生歌を聴けることです。生歌の声が心に響き渡り感動する瞬間はライブでしか味わえません。普段からお気に入りの曲で「この曲を歌ってほしい」と思っていた曲を歌ってくれた時は気分が上がります。

ライブの途中で入るMCではアーティストの人生観や曲に込める思いを語ってくれるので、それまでのイメージとは違った一面を知ることができます。後で曲を聴いたときにライブで語っていたエピソードを思い出したりするのも楽しみの一つです。

アーティストと何万人の観客を結ぶライブは、会場にいるすべての観客と心が一つになることができ、「また明日から頑張ろう」という気持ちにさせてくれます。

第19回

会員の誰もが参加できて、SNSの投稿記事を見るような楽しい記事を掲載していきます。皆様のご参加をお待ちしております。

いどばた会議

私のSDGs　Part10

地産地消・旬産旬消

トヨタ自動車九州㈱　雨宮 翔子（あめみや しょうこ）

サステナブルで健康な食生活の一歩に、地域で採れた旬の野菜や魚を使って料理しています。

産直コーナーに並ぶ元気な食材を眺めながらメニューを考えるのは私のささやかな楽しみの一つ。

旬のものは栄養価が高く、季節も感じられて家族にも好評です♪

献血（すべての人に健康と福祉を）

㈱トノックス　吉川 博（よしかわ ひろし）

数年前より献血をしています。何か人のためになることをしたいと思っていたところ、献血バスに出会い献血を始めました。

調べたところ、献血が多くの命を救うことに繋がっていることを知り、自分の血が抜かれているのを見ながら、誰かの助けになっていることを実感しています。

豆苗の再生栽培

日本フルハーフ㈱　家木（いえき） 優（まさる）

「豆苗」を時々スーパーで買いますが、根っこを残して、トレイに水を入れて再生栽培が出来ます。

1週間程度で収穫出来て、2度くらいは使えます。我が家では、カウンターキッチンに置いて観葉植物的な楽しみ方もしています。部屋に緑があると癒されますよ。

小さな家庭菜園

イサム塗料㈱　泉（いずみ） 貴大（よしひろ）

庭で小さなスペースですがイタリアンパセリ、大葉、エゴマ、バジルの4種類を育てています。

意外とスーパーで買うと高いので節約になっています。また10ヶ月になる娘は触って遊んでいます。

そのキャップ、捨てるなら頂戴!

日本ペイント・オートモーティブコーティングス㈱
富加須（ふかす） 勇輝（ゆうき）

リサイクル会社さんにペットボトルキャップの買い取りをしてもらい、そこからNPO法人を通じて発途上国の子供たちにワクチンを送っています。2023年の実績は2,250個で約1人分でしたが、これを継続し、周囲の人にも広めていくことが私のSDGsです!

我が社の元気人

㈱大上自動車工業
経理部
大上（おおうえ） カンナさん

慣れるまでは業務内容を覚えるのが大変でした

Q1 どんなお仕事ですか?

一般経理業務や納品請求書などの書類作成を主に行っています。また、備品管理や社内書類の整理、社内制度の整備など総務的な役割も担っています。

Q2 仕事で楽しいときは

取組みはじめではありますが、社内のイベントや制度の立案、企画を現在行っています。少数のチームで運営しているため意見も言いやすく、内容が形になっていくのが実感できるときが楽しくもあり嬉しくもあります。

Q3 仕事でつらいこと

経理業務に携わるのが初めてでわからないことが多く、慣れるまでは業務内容を覚えるのが大変でした。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

創立70周年のタイミングで記念品の製作を任されたことです。QUOカードをデザインから作成し、出来上がったものを従業員の皆さんや取引先様にお配りしたときに達成感を感じました。その後お礼のお手紙やお言葉をいただいたときに無事できあがって良かったなと実感しました。

Q5 御社のPRをしてください！

㈱大上自動車工業ではKEITH社製WalkingFloor（ウォーキングフロア）を搭載したトラックボデーとコンテナの製造販売を中心に、トラックボデーの二次架装や修理、油圧装置の架装などを行っています。製品についてご興味がございましたらお気軽にご相談ください。

トヨタ車体㈱
TYZ ZU
安尾（やすお） 博文（ひろふみ）さん

みんなで喜びを分かち合うとき、一番やりがいを感じます

Q1 どんなお仕事ですか?

コースターの製品企画を担当しています。営業、調達、工場、設計・生技各部署と広く連携して、世界中のあらゆるお客様に快適な移動手段を提供する仕事です。

商用車ならではの、オーナー、ドライバー、乗客の其々のニーズを広くキャッチアップすることを心掛けています。

Q2 仕事で楽しいときは

私の仕事は、開発部署（設計、評価等）へどうしても難しいお願いばかりしてしまうので、やや敬遠されがちです。

しかし、企画初期段階から携わり、苦労してまとめ上げたプロジェクトが製品として世に出たときは、みんなで喜びを分かち合うことができ、一番やりがいを感じます。

Q3 仕事でつらいこと

設計部署から企画に異動して来た当初は関係先が多くて驚きました。調整業務（他部署に跨る意見調整）が多く大変でした。Teams等の通信環境の発達で、海外との情報伝達は容易になりましたが、直接会えないので表情が読み取れないのが悩みの種です。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は?

先日、四川省成都市に海外出張しました。仕事では現地作業者との意思疎通に苦労しました。一応、中国語を勉強して行ったのですが、てんで通じなかったです。残念(笑)。ですが、本場の四川料理に舌鼓（痺れる辛さ）を打ちながら談笑するうち、気持ちが通じ合うことができました。

Q5 御社のPRをしてください！

トヨタ車体㈱はコースター、ハイエース、ランドクルーザーやミニバン他、様々な車種を開発、製造しています。最近は商用ニーズにお答えするため、商用車架装専門店のCARGOBASE(cargobase-ty.com)をオープンし、お客様からのご相談にメーカーならではの解決策をご提供しております。ぜひお立ち寄りください。

2024年4月～6月　会員生産状況概要

① 合計（非量産車+量産車）
- 4月～6月の累計台数は、前年比2.5%増と、2年ぶりの前年割れ

② 非量産車合計
- 4月～6月の累計台数は前年比1.9%増と2年連続の前年超え

③ 特装車
- 4月～6月の累計台数は、前年比8.4%減と2年ぶりの前年割れ
- 輸送系は同8.5%減、作業系・その他は同1.6%減、輸出向けは同19.1%減

④ 特種車
- 4月～6月の累計台数は、前年比2.9%減と2年ぶりの前年割れ
- 緊急用が同5.8%、その他が2.7%増となったものの車いす移動車が同11.0%減

⑤ 平ボデートラック（除シャシメーカー標準トラック）
- 4月～6月の累計台数は、前年比2.5%増と2年連続の前年超え
- 大型は同7.3%増、中型は12.0%増、小型・軽は同7.0%減

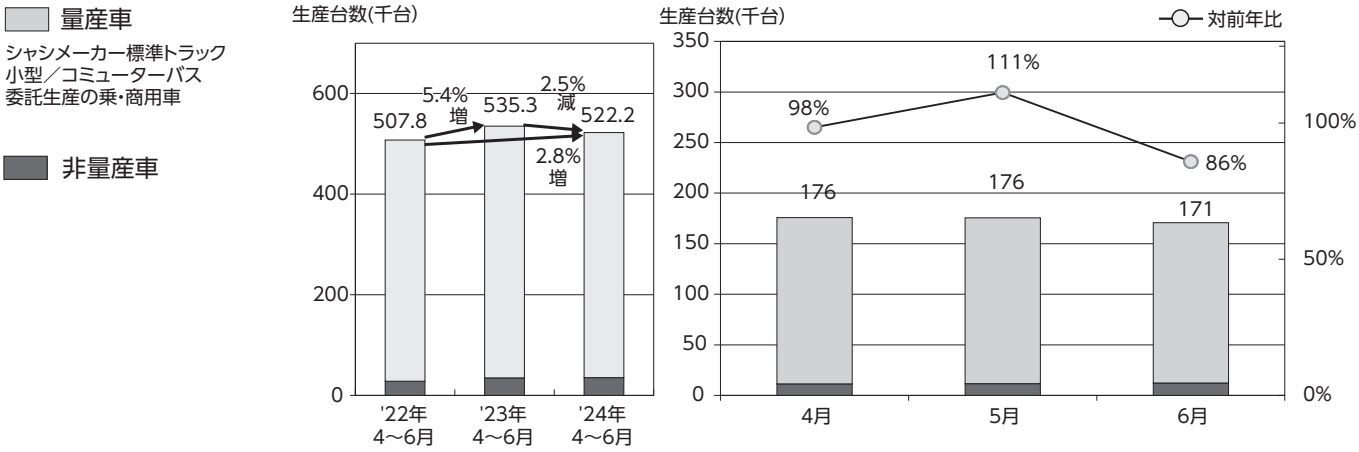
⑥ バン
- 4月～6月の累計台数は、前年比9.5%増と2年連続の前年超え
- バン（除く冷凍・保冷車）は同10.4%増、冷凍・保冷車は同7.7%増

⑦ トレーラ
- 4月～6月の累計台数は、前年比11.6%減と2年連続の前年割れ
- 平床が同10.2%減、バンが13.5%減、コンテナが同11.9%減、その他が9.4%減

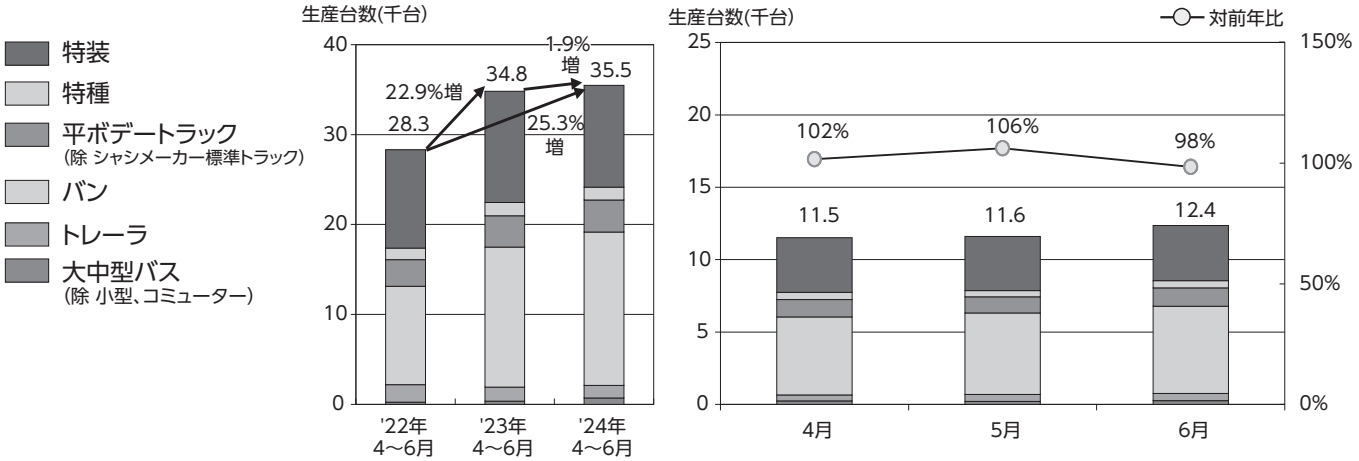
⑧ 大中型バス
- 4月～6月の累計台数は、前年比105.4%増と2年連続の前年超え
- 路線は同58.4%増、観光は同343%増、自家用は同25.5%減

⑨ 乗用・小型商用・軽
- 4月～6月の累計台数は、前年比3.9%減と2年ぶりの前年割れ
- 国内向けは同10.8%減、輸出向けは同2.4%増

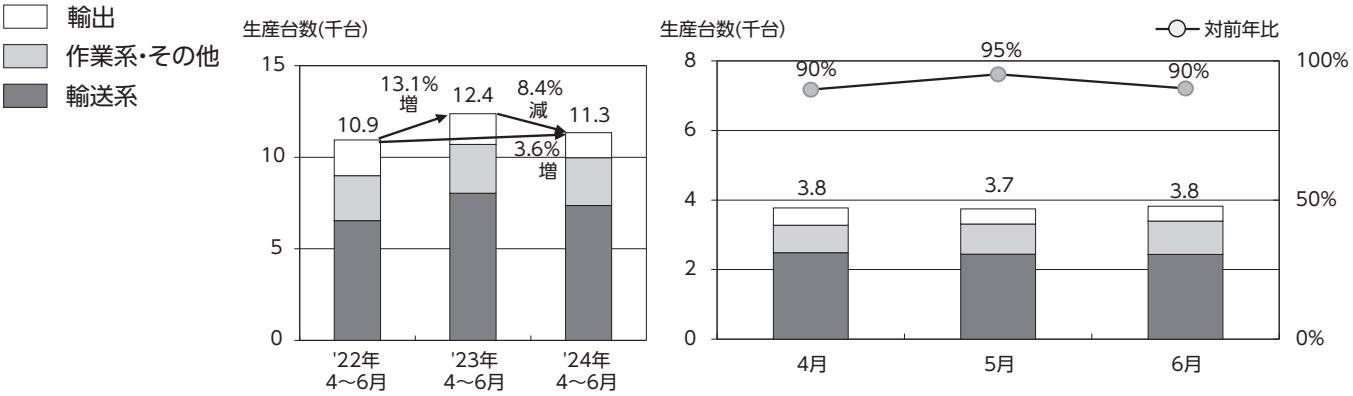
合計（非量産車＋量産車）



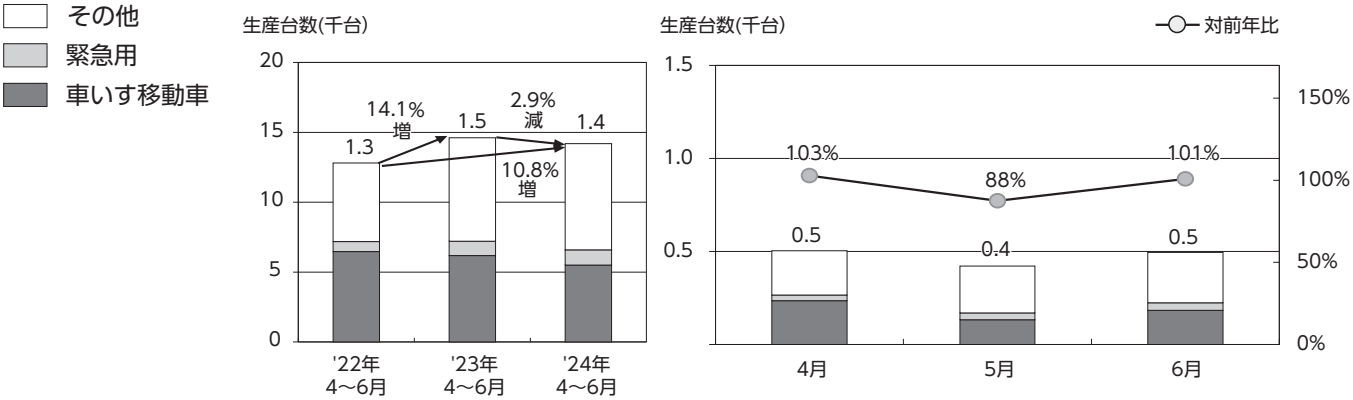
非量産車合計



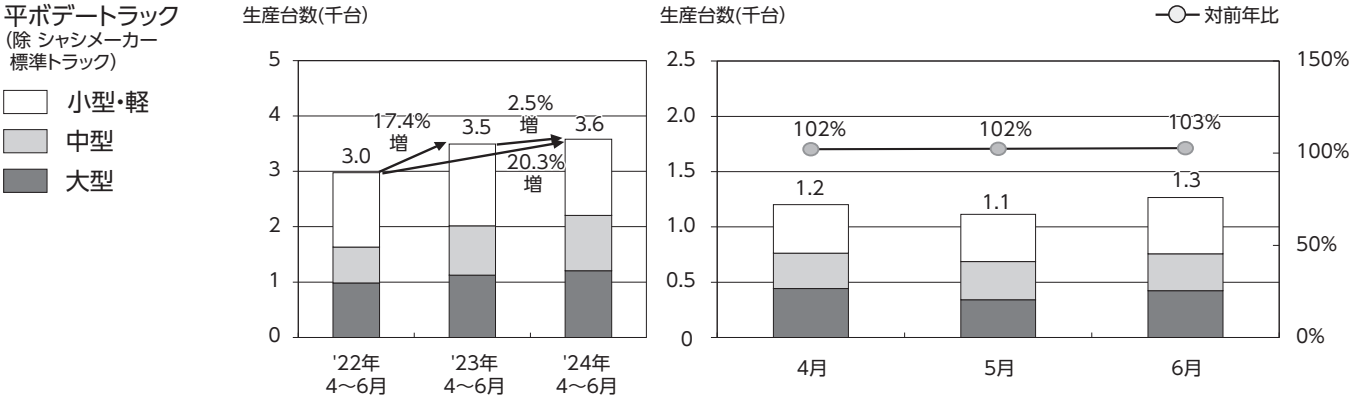
特装車



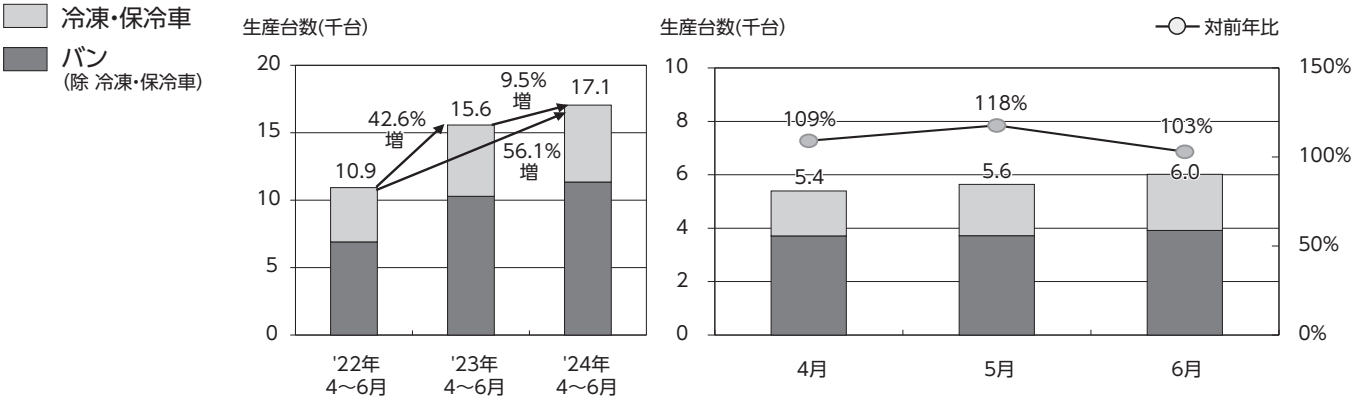
特種車



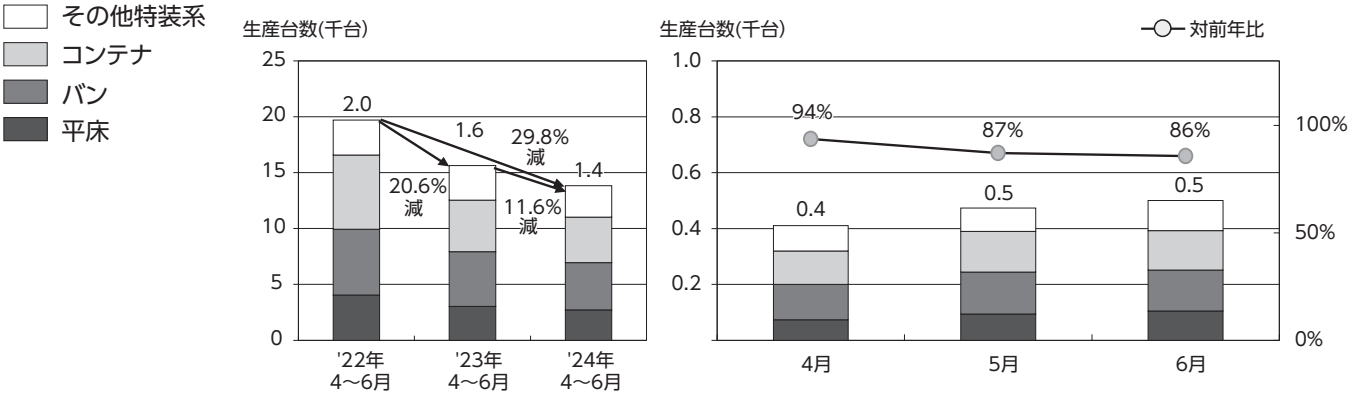
平ボデートラック（除 シャシメーカー標準トラック）



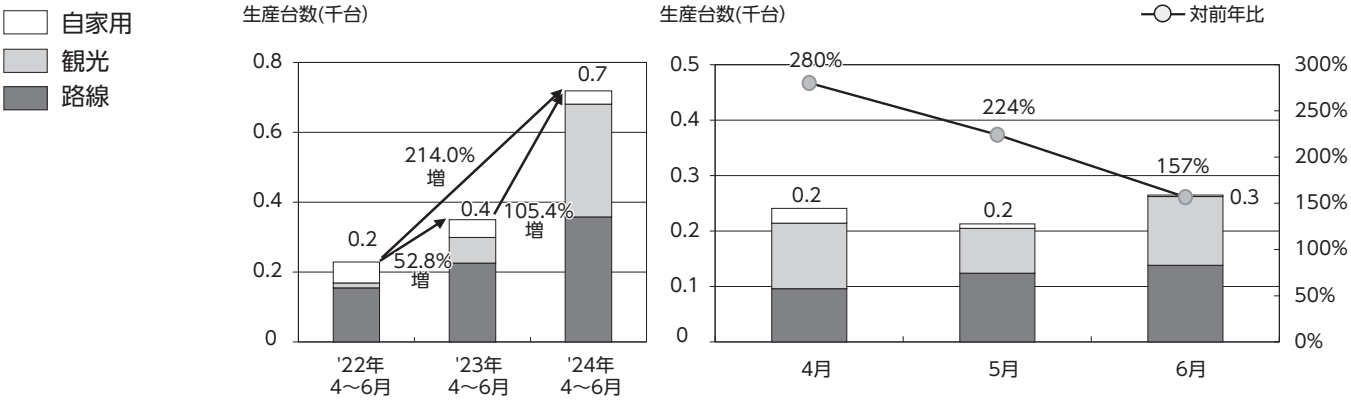
バン



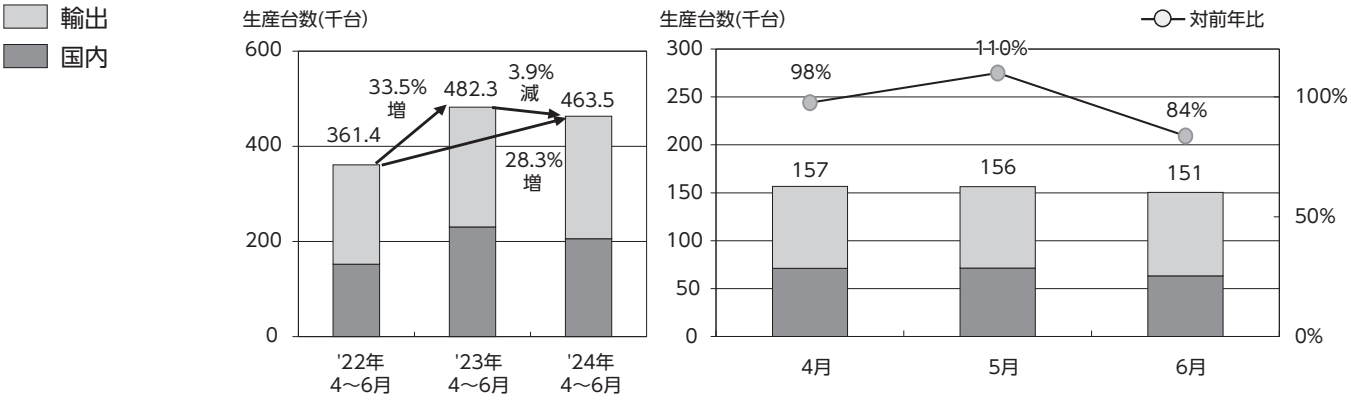
トレーラ



大中型バス



乗用・小型商用・軽



車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動に伴う業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

https://www.jabia.or.jp/data/index.php

編集後記

今号では、まずは巻頭言で布原副会長より中央技術委員会の活動の意義をご説明いただいた。特に当会に加入される会員の皆様の最重要事項が、製品の法規適合による確実なビジネス対応であり、7月の委員会時では、UN（国連）規則対応のための前広な情報収集の仕組みや、シャシメーカーとのより緊密な情報交換等について、委員より積極的な提案がなされた。当会の一層の発展に向けた技術面の活動強化について、委員の皆様は志高く活動に参加いただいている。

また、2021年度に立ち上げたCN活動も4年目を迎え、特に今年は「カイゼン活動がCNの出発点」「本部委員会と部会・支部との一体活動」等を取組み重点に掲げる中で、特種部会とトレーラ部会のCN主眼の工場見学会が行われた。ご参加の皆様は、各々多くの気づきを持ち帰られたのではないかと思う。引き続き、他の部会でのCNや、本部委員会との一体活動と情報交換を行いたい。

戦火が消えない中、パリでは4年に一度の祭典が行われ、多くの勇気と感動をいただいた。選手は国を背負い、我々は日本のメダル数等の結果に関心を注ぐが、その地に立った世界中の選手、またその場を用意された関係者全員の、努力、諦めない気持ち、様々な準備に想いを馳せれば、また違った見え方もできる。実現しなかったが、6年前に自らが東京大会のボランティアに手を挙げていたことも思い出している。

（板倉）

表紙写真について

トレーラ部会

日本フルハーフ㈱製

「大型ゲート付き2段床トレーラ」

レーシングカーを積載するために開発した大型ゲート付き2段床トレーラです。

お客様より「サーキットで見た」とお問い合わせがあります。

他の積載物にも転用でき、2段床を活用した様々な輸送にも対応可能です。

2024年問題の解決に貢献できる商品です。

お知らせ

環境対応事例発表会のご案内

◆日　時：2024年10月18日㈮
14:30～17:00

◆場　所：くるまプラザ + Web接続
東京都港区芝大門1-1-30
日本自動車会館1階

◆内　容：特別講演、会員各社の環境対応事例他 4件、表彰式

秋季会員大会　講演会のご案内

◆日　時：2024年11月1日㈮
15:00～18:00

◆場　所：品川プリンスメインタワー
※場所がいつもと異なります
東京都港区高輪4丁目10−30

◆講演会：「需要動向と当社の取組み」について
講演者　三菱ふそうトラック・バス㈱

訃報

当会の元理事(埼玉自動車工業㈱元代表取締役)矢島廣一氏が8月10日に逝去されました(享年76歳)。

当会トラック部会事業にも大きく貢献され、2018年度～2023年度においては当会理事(関東支部長)に就任されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

故 矢島廣一氏

この会報「車体NEWS」は、主として法令改正等含めた自動車車体にかかわる情報をとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車技術総合機構、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

広告掲載会社

日本トレクス株式会社 …… 表2
スリーエム ジャパン株式会社 …… 表3
損害保険ジャパン株式会社 …… 表4

車体NEWS
AUTUMN 2024 秋

2024年9月15日発行
発行所　一般社団法人　日本自動車車体工業会
〒105-0012　東京都港区芝大門1-1-30
TEL.03-3578-1681　FAX.03-3578-1684
発行人　板倉　範顕

トレーラ火災にご注意！

トレーラの装置別不具合

制動

ブレーキ・チャンバ、スプリング・チャンバ
ダイヤフラムの劣化、スプリングの折損、
ブレーキ・ホースや継ぎ手の劣化

リレー・エマージェンシ・バルブ
エアフィルターの目詰まり、パッキン類の劣化
不純物や水分凍結によるリレー部目詰まり

オートマチック・スラック・アジャスタ、ブレーキシュー
ゼロ点調整不良、リターンスプリングの劣化
シューベアリング部の潤滑不良

走行

車軸, ホイール, ハブ
ベアリング部の潤滑不良、
アクスルナットの締付トルク不良

→ エア圧力低下
ブレーキ引き摺り

→ ブレーキ戻り不良
ブレーキ引き摺り

→ 回転不良
摩耗

→ **発火**

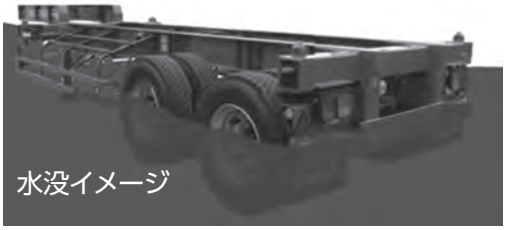
↓

適切な点検整備を行うことが車両火災の防止に有効です

一般社団法人 日本自動車車体工業会 トレーラ部会
Japan Auto-Body Industries Association Inc.

水没したトレーラの取り扱いについて

集中豪雨などで水没したトレーラは、ホイールベアリングの錆び付きやブレーキの引きずり等により、脱輪や火災に至る恐れがありますので、以下の「水没トレーラ点検箇所一覧表」をご参照し、必ず点検・整備を行ってください。


水没イメージ

水没した部品の事例

アクスルナット

ホイールベアリング

スピンドル

ハブ内部

ブレーキチャンバ

水没トレーラ点検箇所一覧表　（一般的な形状のトレーラ）

点検箇所			点検内容	
			車軸まで浸水	荷台まで水没
制動装置	サービスブレーキ	エアカプラ(黄&赤)	ー	分解、清掃、給油
		リレーエマージェンシーバルブ		
		エアタンク		分解、清掃
		ブレーキチャンバ	分解、清掃	
		配管		
	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ操作バルブ	ー	交換
		スプリングブレーキチャンバ	交換	
		配管	分解、清掃	分解、清掃
	ABS装置	モジュレータ	ー	交換
		車輪速センサ		
		配線		
		配管		分解、清掃
	機構部分	オートスラックアジャスタ	分解、清掃、給油	分解、清掃、給油
		Sカム及びシャフト		
		ブレーキシュー&ライニング		
		ブレーキドラム	分解、清掃	分解、清掃
走行装置	アクスル	スピンドル	分解、清掃、給油	分解、清掃、給油
	ハブ	ベアリング	交換、給油	交換、給油
		ハブオイルシール	交換	交換
緩衝装置	バネサス	スプリング	ー	分解、清掃
		ロッカーアーム及びピン		分解、清掃、給油
		トルクロッド	清掃	分解、清掃
	エアサス	ベローズ	清掃	交換
		各バルブ	ー	
		ハイトコントロールレバー		
		配管		分解、清掃
		ショックアブソーバ	清掃	交換
	リフトアクスル	エアチャンバまたはベローズ	分解、清掃、給油(チャンバ)、清掃(ベローズ)	分解、清掃、給油(チャンバ)、交換(ベローズ)
		配管	分解、清掃(チャンバ)、ー(ベローズ)	分解、清掃
電気装置	灯火器	7極ソケット	ー	交換
		車幅灯		
		方向指示器		
		側方灯		
		リヤコンビネーションランプ		
		後退灯		
		番号灯		
		配線		
その他	連結装置	キングピン	ー	清掃、給油
	補助脚	本体	清掃	分解、清掃、給油
	車枠及び車体	フレーム	ー	清掃
	架装物	架装物	仕様による	仕様による

トレーラのブレーキ利き不良に注意

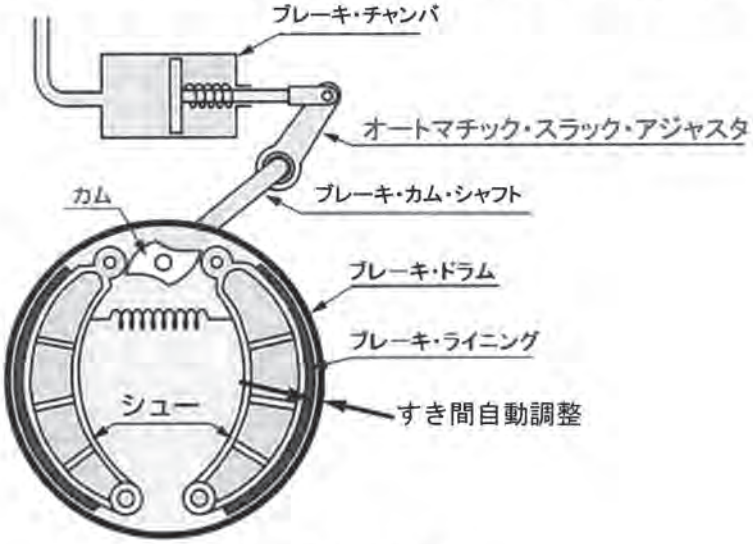
オートマチック・スラック・アジャスタの点検整備のお願い

オートマチック・スラック・アジャスタの点検整備を怠ると

トレーラのブレーキ利き不良

オートマチック・スラック・アジャスタとは

オートマチック・スラック・アジャスタは、2000年7月（中期ブレーキ規制）から装着された、ブレーキ・ライニングとドラムとの隙間を自動的に調整し、ブレーキの利き具合を最適化する装置です。



ブレーキ装置概要

オートマチック・スラック・アジャスタに負担のかかる条件

中期ブレーキ規制以前、停車時におけるブレーキ操作は、トレーラ・ブレーキ・レバーで行う場合がありました。中期ブレーキ規制以降、ブレーキ操作系の変更に伴い、停車時におけるブレーキ操作は、トラクタの駐車ブレーキ・レバーで行われる場合があり、この操作を多用される場合や登り降りの頻繁な走行等ではオートマチック・スラック・アジャスタやブレーキ・カム・シャフト等に負担がかかり、故障する場合があるため『シビア・コンディション時の点検』が必要です。点検整備を行うことにより、これらの性能維持や故障時の早期発見が可能となります。

一般社団法人　日本自動車車体工業会　トレーラ部会

https://www.jabia.or.jp/

ご存知ですか、このラベル。

環境にやさしい働くクルマに付いてます。

“環境基準適合ラベル”

環境基準適合ラベルは、架装物解体作業の容易化、再生資源の適正な処理を促進する
“環境にやさしい車体”であることを証明する車体工業会で制定したラベルです。

JABIA 適 一般社団法人 日本自動車車体工業会・環境基準適合

JABIA 適 一般社団法人 日本自動車車体工業会・新環境基準適合

環境基準適合ラベル
ホワイトラベル
環境に配慮した3つの要件

適合要件
- ●3R(リデュース・リユース・リサイクル)判断基準ガイドラインの作成・活用
- ●製造者名、樹脂部品材料名の表示
- ●解体マニュアルの作成・公開

新環境基準適合ラベル
ゴールドラベル
ホワイトラベルにさらに3つの要件を追加

追加要件
- ＋ 車体製品部材のリサイクル可能率95%以上
- ＋ 車体工業会における「環境負荷物質自主取組み基準」を満たしている
- ＋ ISO14001やエコアクション21など第3者機関による環境認証取得工場で生産

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

12 つくる責任 つかう責任

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

環境省ホームページ「環境ラベル等データベース」へ登録され掲載されています。https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/a04_48.html

一般社団法人 日本自動車車体工業会
Japan Auto-Body Industries Association Inc.
東京都港区芝大門1丁目1番30号　日本自動車会館15階　TEL(03)3578−1681　FAX(03)3578−1684

詳しくはWebページをご覧ください。

JABIA 検索

www.jabia.or.jp

事業者、ドライバー、整備工場の皆さんの協力をお願いします。

防ごう 大型車の 車輪脱落事故

お・と・さ・な・い

おとさぬための点検整備

事前の正しい点検が大きな事故を未然に防ぐ唯一かつ最善の手段です。

トルクレンチで適正締付

適正なトルクレンチによる規定トルクの締め付け、タイヤ交換後の増し締めの実施。

動画をチェック!

正しい点検方法や連結式ナット回転指示インジケーターの使用方法をご案内しています。

さびたナットは清掃・交換

ディスクホイール取付面、ホイールナット当たり面、ハブの取付面、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、追加塗装などを取り除きます。

ナット・ワッシャー隙間に給脂

ホイールボルト、ナットのねじ部と、ナットとワッシャーのすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑油を薄く塗布し、回転させて油をなじませてください。

いちにち一度は緩みの点検

運行前に特に脱落が多い左後輪を中心に、ボルト、ナットを目で見て手で触って点検します。

「お・と・さ・な・い」を**徹底**しよう!

Mr. 整備くん

詳しい情報は日本自動車工業会ホームページへ
https://www.jama.or.jp/truck-bus/wheel_fall_off/

国土交通省　自動車点検整備推進協議会　大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会　日本自動車工業会(いすゞ自動車　日野自動車　三菱ふそうトラック・バス　UDトラックス)
全日本トラック協会　日本バス協会　全国自家用自動車協会　日本自動車整備振興会連合会　日本自動車販売協会連合会　全国タイヤ商工協同組合連合会　日本自動車タイヤ協会
全国石油商業組合連合会　日本自動車車体工業会　日本自動車輸入組合　日本自動車機械工具協会　日本自動車機械器具工業会　自動車用品小売業協会　日本自動車車体整備協同組合連合会

架装物の安全点検制度

架装物の定期点検で『SDGs』に貢献

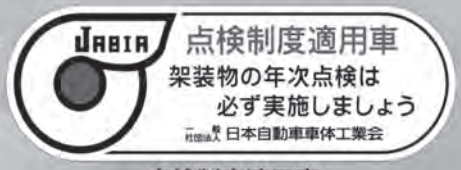
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

環境にやさしい未来をつくる働く車
未来の子ども達に美しい地球を
のこすため「豊かな環境保全」には
定期点検整備が必要です。
定期点検整備を実施した事を証明する
『架装物年次点検【済】』ステッカーです。

安全・安心・信頼の証　ステッカー!!

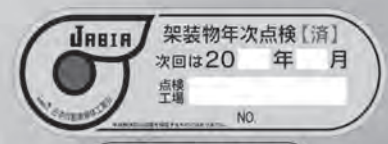
※　新車時　『点検制度適用車』ステッカー

品質保証付き

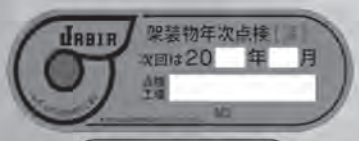


点検制度適用車

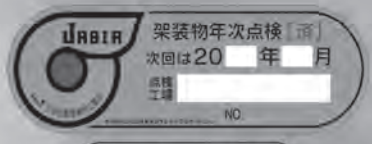
※　点検時　『架装物年次点検【済】』ステッカー



2023年（黄色）



2024年（水色）

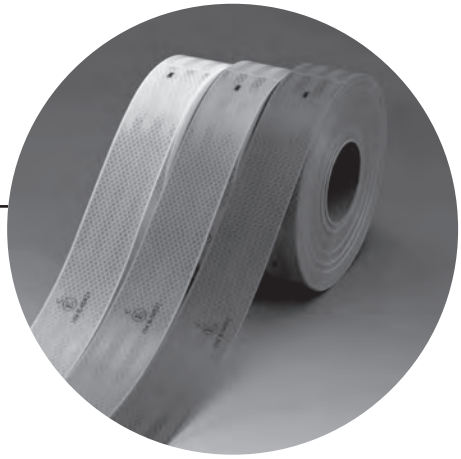


2025年（黄緑色）

一般社団法人 日本自動車車体工業会　中央技術委員会 点検整備推進分科会
Japan Auto-Body Industries Association Inc.
https://www.jabia.or.jp/

美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。



夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング（線状再帰反射材、輪郭再帰反射材等）が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した（※Eマーク付）3M™ダイヤモンドグレード™コンスピキュイティ反射シートを提供しています。

また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカル™フィルム、コントロールタック™ コンプライ™グラフィックフィルム、プリントラップフィルム等の施工性に優れた製品を提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。

3M™ダイヤモンドグレード™
コンスピキュイティ反射シート

3M™プリントラップフィルム IJ280

3M™ ダイヤモンドグレード™ コンスピキュイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反性反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約７年です。（当社ガイドライン通りに貼付された場合）。

事故減少に対するコンスピキュイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

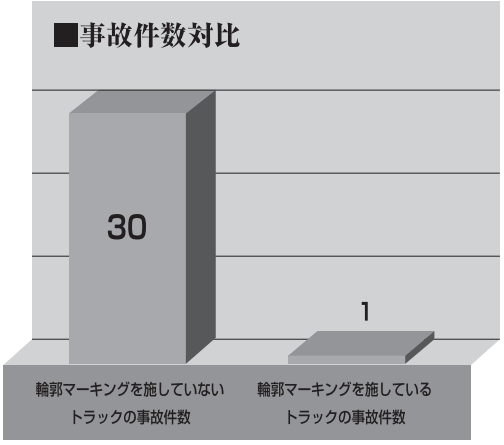
■ヨーロッパにおける研究報告

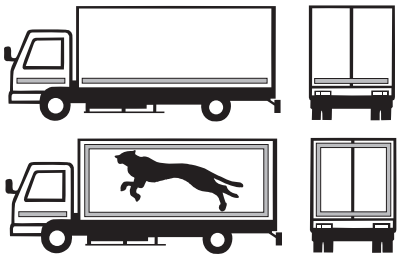
●夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約４０%が”みられやすさ”（コンスピキュイティ）不足により発生している。

●再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約 1/30 だった。

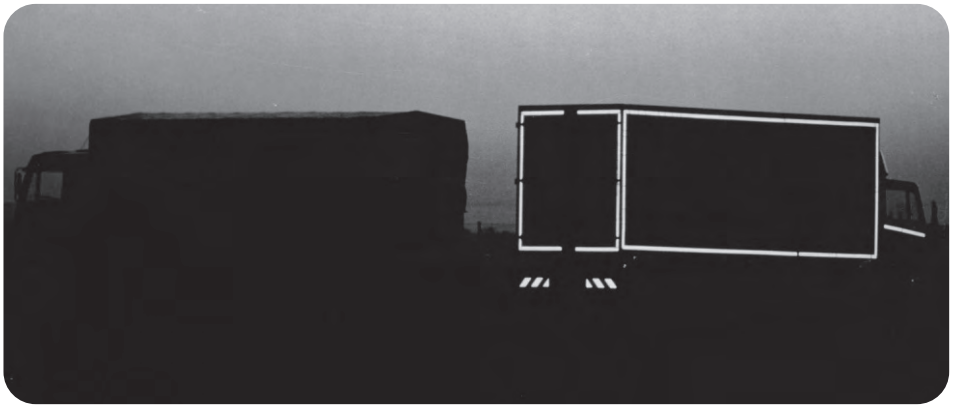
■米国における研究報告

●再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約３０%減少させた。特に夜間では約４０%減少させた。





Eマークとは:国際的な車両型式認証の相互承認制度（IWVTA）に基づき、協定規則の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入り製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示 第55条の2」に定められている基準に適当している製品です。



スリーエム ジャパン株式会社
コマーシャルブランディング&トランスポーテーション事業部

本社　〒141−8684　東京都品川区北品川6丁目7番29号
電話　03−6409−3388
URL　https://www.mmm.co.jp

好評!

生産物賠償責任保険　生産物回収費用補償特約

日本自動車車体工業会 団体PL保険制度

自動車メーカーだけではなく、車体メーカー、部品メーカーも責任を問われる時代です。

随時加入申込受付中

車体工業会会員の皆さまのための専用の保険制度

JABIA

ご要望にお応えして

スケールメリットを生かした割安な保険料

他社で加入されている契約の現在設定されている遡及日継承が可能となりました!

制度の趣旨

■(一社)日本自動車車体工業会の会員の皆さまのためのPL保険制度です。
■PL保険制度はPL事故および架装等が原因で生じた賠償事故の損害に対応します。
　車体工業会のスケールメリットを活かした制度で多くの会員の皆さまにご利用いただいております。
■今年度新設したリコール・オプション(生産物回収費用補償特約)もぜひご検討ください。
■この広告は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン営業店までお問い合わせください。

お気軽にご相談ください

取扱代理店:
〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町1-4-1　内山ビル2F　株式会社ワイズマン　東京支店
TEL. 03-5623-6455　FAX. 03-5623-6488
ご相談用メールアドレス:jabiahoken@wiseman.gr.jp
引受保険会社:
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1　損害保険ジャパン株式会社 営業開発部第一課
TEL. 03-3349-3322　FAX. 03-6388-0155

SOMPO 損害保険ジャパン株式会社

SJ24-04981　2024.07.24